7月度　行事予定

■大会

7.23～25　第13回全国クラブ選手権大会
於：神奈川県横浜市平沼記念体育館、戸塚スポーツセンター、横浜市立体育館
参加　全国各地の予選を通過した男子24、女子16チーム

7.31～8.1　第6回小学生大会
於：京都府田辺町　田辺中央体育館
参加　自由

■ナショナル活動

7.16～23　女子　合宿　於：関東地区
7.20～未定　女子ジュニア韓国遠征（世界ジュニア選手権に向けての強化）
7　男子　合宿
7.25～8.10　男子ヨーロッパ遠征（ドイツ、ノルウェー、デンマーク等）
7.17　常務理事会

CONTENT

7月度行事予定……1
（財）日本ハンドボール協会委員会委員名簿……2
1993年ルール改正〈付・質疑応答〉……審判委員会……4

■第34回全日本実業団選手権大会
男子の部を顧みて……全日本実業団連盟副理事長　吉澤力男……7
新鮮・充実の男子……全日本実業団連盟常務理事　喜井美雄……8
女子に新人の台頭あり…全日本実業団連盟副理事長　横地宇吉……8

世界一のレフェリーを招いて…全日本実業団連盟審判部長　西村興八……10
スウェーデンペアとの四日間…東京都協会　鈴木慎二……11
スウェーデンペアが披露したパラダイム…大阪府協会　岸本光夫……12
トップ・レフェリー研修会に参加して…東京都協会　佐藤和幸……13

女子ナショナルの自衛隊相浦駐屯地生活体験入隊から
トレーニングドクター　西山逸成……15
女子ナショナルの自衛隊体験入隊記……16
ドイツ研修レポート●同時期に各大会が同時進行…田口　隆……18

第1回全日本教職員選手権大会開催
生涯ハンドボールを目指して……小山哲史……19
新登場●国際情報……20
県協会だより《秋田県》《栃木県》《茨城県》……22
強化委員会報告……23
日本協会だより……23
各地の試合結果……24

【写真提供：（株）スポーツイベント】

アジアハンドボール選手権大会開催日の変更

6月号でお知らせした日程のうち女子の試合日程が開催国（中国）の都合により左記の通り変更になります。

訂正前　8月12日～18日　▼　訂正後　8月18日～26日

（尚、男子の日程については変更ありません）

財団法人 日本ハンドボール協会

各委員会委員名簿

去る、5月22日の常務理事会で平成5、6年度の各委員会のメンバーが次のとおり決定致しました。(委員会の■印は管轄専門委員会)

ワーキンググループ

中澤重夫(芝浦工業大学)
恩田健一(東京電力㈱)
江成元伸(昭和薬科大学)
村松　誠(駒沢大学)
羽田裕一(JUKI㈱)

●会計

殿水幸雄(㈱アプラス)
清水　正
齋藤　博(日本協会事務局)
本多正樹(日本協会事務局)
高畠和江(日本協会事務局)

●財務

山下　泉(ゼネラル興産㈱)
井　薫(㈱オムロン)
植村　繁
殿水幸雄(㈱アプラス)
市原則之(湧永製薬㈱)
佐分正典(県立大沢高校)

＊　＊　＊

■アジア大会

山下　泉(ゼネラル興産㈱)
大塚文雄(都立国立高校)
井　薫(㈱オムロン)
竹野奉昭(大崎電気工業㈱)
植村　繁
市原則之(湧永製薬㈱)
木野　実(湧永製薬㈱)

●指導(中央)

大西武三(筑波大学)
村松　誠(駒沢大学)
高橋英次(福生市教育委員会)
平岡秀雄(東海大学)
浅野鉦世(武蔵工業大学)
岡本研二(茨城大学)
江成元伸(昭和薬科大学)
笹倉清則(日本女子体育大)
芝　重春(自衛隊体育学校)
小山　浩(足立工業)

＊　＊　＊

■競技専門

大西武三(筑波大学)
北井晴次(草加東高校)

●指導(ブロック)

大西武三(筑波大学)
松　喜美夫(函館大学)
後藤義信(郡山高校)
稲生　茂(泉高校)
矢島富士雄(小諸高校)
角　紘昭(市立西福田小学校)
秋永昭治(湖南高校)
福岡篤紀(市立東朋中学校)
谷口友一(高松東高校)
池田　修(福岡教育大学)

●強化

井　薫(㈱オムロン)
藤原　侑(日本体育大学)
穂積豊彦(㈱北国銀行)
井上亮一(夙川学院高校)
緒方嗣雄(㈱大和銀行)
高野　亮(東京女子体育大学)
樫塚正一(武庫川女子大学)
津川　昭(湧永製薬㈱)
野田　清(大同特殊鋼㈱)
福地賢介(国際経済調査㈱)
高橋清一(桃山学院高校)
蒲生晴明(大同特殊鋼㈱)
松井幸嗣(日本体育大学)
早川清孝(京都芸術大学)
佐々木英明(市立上中学校)
西山逸成(防衛大学)

●審判

大塚文雄(都立国立高校)
加藤雅之(県立臼田高校)
齋藤　実(県立吉田学校)
岡本研二(茨城大学)
江成元伸(昭和薬科大学)
狩野幸介(明石保険センター)
上久保重次(伊奈学園総合高校)

＊　＊　＊

■総務

宮川隆史(都立神代高校)
花野誠一(昭和薬科大学)
兼田佳博
菊地一博(自衛隊体育学校)

＊　＊　＊

■連盟審判長

西村興八(㈱神戸製鋼所)
島崎政治(府立豊島高校)
北岡大覚(寝屋川高校)
岡本研二(茨城大学)
溝口博一(市立佐京山中学校)

＊　＊　＊

■ブロック審判長

難波恒彦(札幌稲西高校)
小友正人(盛岡第二高校)
上久保重次(伊奈学園総合高校)
越田義昭(県立羽水高校)
吉田　元(大垣古宮郵便局)
柳井文治
北山　隆(滝川高校)
松原久士(新田高校)
福田英明(福岡歯科大学)

＊　＊　＊

■日本リーグ審判

羽田裕一(JUKI㈱)
三尾良之(㈱中村荷役)

＊　＊　＊

■ルール研究

蒲生晴明氏、JOC専任コーチに就任!!

日本ハンドボール協会男子ナショナルチームの蒲生監督は今回、日本オリンピック委員会より専任コーチに任命された。

この制度は『オリンピックをはじめとする国際競技大会で活躍が期待できる競技団体に専任コーチを設置し選手の育成、強化を効果的に推進する』という主旨で設けられたものであり、今年度は各競技団体より推薦された方々の中から14名が任命された。

同氏は所属チームより離れ日本協会への出向扱いとなり、強化活動に専念することとなる。

尚、常駐場所は大同特殊鋼（株）星崎工場技術学園内となる。

江成元伸（昭和薬科大学）
後藤　登
清水宣雄（国際武道大学）
浜田弘和（都立第五商業高校）
小笠原久郎（㈱進研社）

＊　＊　＊

■審判審査

狩野幸介（明石保健センター）
加藤雅之（県立臼田高校）
斎藤　実（県立吉田学校）
矢沢達司（県立並木高校）
中本成基（県立広高校）
藤本　昇（桂高校）

●国際

竹野奉昭（大崎電気工業㈱）
杉山　茂（日本放送協会）
平岡秀雄（東海大学）
西村興八（㈱神戸製鋼所）
木野　実（湧永製薬㈱）
田川正明（㈱エモック）

●企画

木野　実（湧永製薬㈱）
滝口三郎（滝口製作所）
織田島高生（富士ゼロックス）
福本　弘（大崎電気工業㈱）
大城和彦（湧永製薬㈱）
福地賢介（国際経済調査㈱）
竹内　武
宮崎紳一
山本　一（ゼネラル興産㈱）
早川文司（中国新聞社）
松本　勇（㈱中村荷役）

●広報

木野　実（湧永製薬㈱）
植村　繁
恩田健一（東京電力㈱）
朝香　茂
小林晶子（㈱大和銀行）
藤本康生（湧永製薬㈱）
早川文司（中国新聞社）
安藤文人（㈱三陽商会）

●普及

小西博喜（京都工芸繊維大）
清水　正
金原　至
松原　忠（県立高松南高校）
佐分正典（県立大沢高校）
吉田博二（京都児童相談センター）
真田　元（市立野庭中学校）
佐路清隆（田辺中央体育館）
恩田健一（東京電力㈱）

＊　＊　＊

■小学生

松井　光（明野北小学校）
平木一令（香川町役場）
田浦　博（田浦石油店）
北　和人（市立中央小学校）
中山重一（全日本検数協会）
栗本士郎（栃木合同陸運㈱）
小川秀樹（ランクテーラーホブソン㈱）
塩田幸雄（本宮町教育委員会）
高田智史（町立白神小学校）
小西博喜（京都工芸繊維大）
佐路清隆（田辺中央体育館）

＊　＊　＊

■中学生

小西博喜（京都工芸繊維大）
加藤正喜（安田信託銀行）
真田　元（市立野庭中学校）
清水　勝（市立東月寒中学校）
根本　真（市立信夫中学校）
谷口孝治（市立進明中学校）
竹内　強（市立三津浜中学校）
溝口博一（市立富田中学校）
望月裕之（市立堺港第二中学）
佐々木英明（市立上中学校）
妻鹿　実（町立鳴北中学校）

●日本リーグ

殿水幸雄（㈱アプラス）
山下　泉（ゼネラル興産㈱）
井　　薫（㈱オムロン）
植村　繁
市原則之（湧永製薬㈱）
西村亮治（大同特殊鋼㈱）
稲住晋二（トヨタ車体㈱）
岩田正之（日新製鋼㈱）
桑名照雄（日立冷熱㈱）
岩井正樹（本田技研工業㈱）

●機関紙

植村　繁
木野　実（湧永製薬㈱）
恩田健一（東京電力㈱）
臼井鉄久（㈱タツノメカトロニクス）
門松真一
本多正樹（日本協会事務局）
菅野恵理（日本協会事務局）

●クラブ（社会人）

中澤重夫（芝浦工業大学）
小西博喜（京都工芸繊維大）
清水　正
金原　至
松原　忠（県立高松南高校）
伊藤和夫（三浦学園名古屋一校）
遠藤健次（浦和市立高校）
山中善之裕
市原則之（湧永製薬㈱）
西山逸成（防衛大学）

●国体

中澤重夫（芝浦工業大学）
清水　正
伊藤和夫（三浦学園名古屋一校）
松原　忠（県立高松南高校）
大塚文雄（都立国立高校）
加藤岳郎（県立須賀川高校）
東　昌弘（広島県教育事業団体育館）

●スポーツ医科学

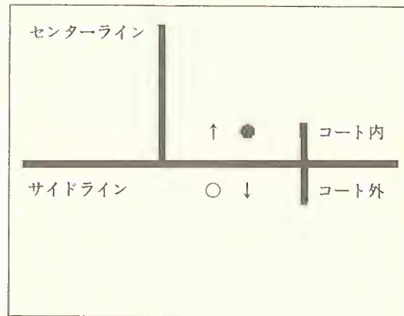
西山逸成（防衛大学）
阿部徳之助（自治医科大学）
森田俊介（山口大学）
竹内正雄（星薬科大学）
市原則之（湧永製薬㈱）
濱脇純一（濱脇病院）
武田　徹（中京大学）
田中　守（福岡大学）
田口　隆（本田技研工業㈱）
伊藤喜久（自治医科大学）
大島一郎
松井幸嗣（日本体育大学）
田中俊行（ブラザー工業㈱）
柳　　等（スポーツ医科学研究所）
板井義博（自治医科大学）
根本　真（市立信夫中学校）
斎藤慎太郎（日本体育大学大学院）
光島良正（東京大学体育研究室）

1993年ルール改正

日本ハンドボール協会　審判委員会

㈶日本ハンドボール協会では、平成5年4月1日よりルール改正を行った。

一　1－8
15cmの交替ラインを、コート外15cmまで延長する。



二　2－2
公示時計による終了の合図を用いるようにする。
★公示時計のブザーで終了する。
★公示時計を使用しないときは時間になったら笛を吹く。

三　2－4
公示時計は加算式（0から30へ進む）とする。

四　5－1
ゴールキーパーがコートプレーヤーの代わりを出来ないという制限を削除する。チームは誰とでも交替することが出来る。12名のプレーヤーで構成される。
しかし、ゴールキーパーとなる者のユニフォームはコートプレーヤーと区別出来るものでなければならない。
★1チームは12名のプレーヤーで構成されるが、ゲームには1名のゴールキーパーと6名のコートプレーヤーが居なければならない。
★交替のプレーヤーは入れ替わるプレーヤーがコートから出ればタイムキーパー・スコアラーに届ける必要はない。この規則はゴールキーパーにも適用される。
★ゴールキーパーになるプレーヤーはコートに入る前にコートプレーヤーと異なる色のユニフォーム（ゲームベストで良い）を着なければならない。コート内でユニフォームを替え、交替は出来ない。
★ゴールキーパーの交替も交替地域から交替する。

五　9－2
得点後レフェリーの合図が行なわれたならば、直ちにスコアボードに掲示されるようにする。再開の笛が吹かれるまでは、レフェリーに得点を取り消す権限がある。
★得点がレフェリーによって認められたら直ちに得点をスコアボードに掲示する。

六　15－2
すべてのレフェリースローをコートの中央から、再開の笛とともに行なうようにする。レフェリースローの時には、常にタイムアウトを取るものとする。

七　17－5・17－6
ベンチのプレーヤーやチーム役員が失格になった場合には、必ずコートプレーヤーを一人退場させる。この退場は、このプレーヤーの違反とはならない（退場時間が残っているときに早く入場してしまった場合の指名退場と同じである）。

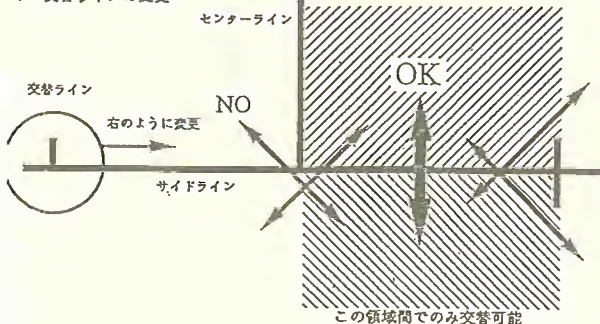
八　レフェリーのハンドシグナル19
ゴールキーパーの交替の時にタイムアウトの後で、コート内のゴールキーパーがコートから出る前に、交替のゴールキーパーがコートに入ることを許すハンド・シグナルをなくす。

九　懲罰規定
★追放・失格（3回目の退場を除く）の懲罰規定
懲罰委員会で協議して即日そのチーム関係者に通知する。
〈懲罰の内容の例〉
①厳重注意
②一試合出場停止
③当該大会の出場停止等
〈懲罰委員会の構成〉
①大会委員長
②競技委員長
③審判長

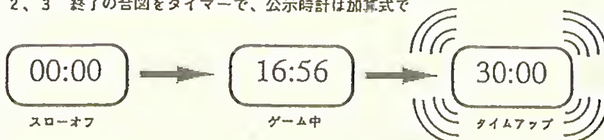
＊　＊　＊

以上の改正を図示すると、およそ次のようになる。

1　交替ラインの変更

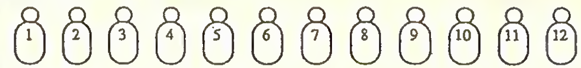


2、3　終了の合図をタイマーで、公示時計は加算式で

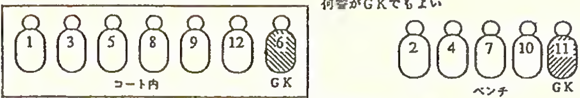


4　ゴールキーパーとコートプレイヤーの交替が自由

登録12名　GKとCPの区別なし



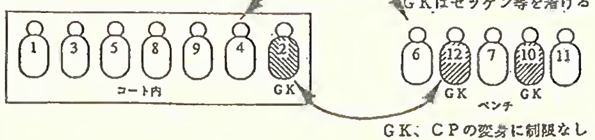
コート内7名　GK1名＋CP6名



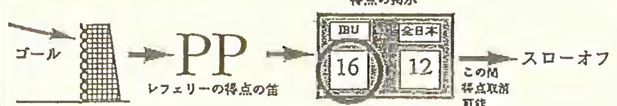
交替はGK同士、CP同士



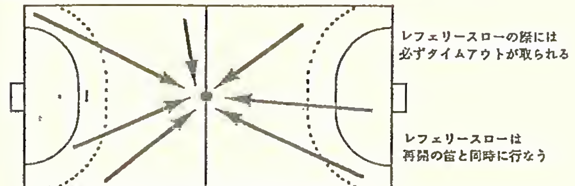
GK、CPの変身はベンチで



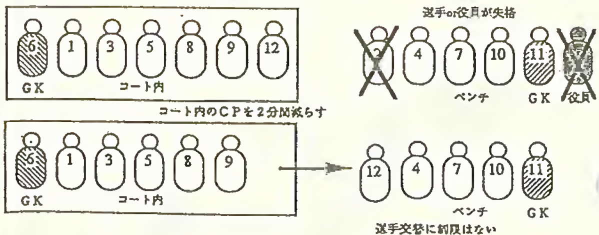
5　ゴール後の得点掲示を早くする



6　全てのレフェリースローをコート中央で行なう



7　ベンチに失格が出たら、2分間CPを一人減らす



8　レフェリーのハンドシグナル19の廃止

タイムアウト時、コート内のゴールキーパーがコートを出る前に、交替のゴールキーパーがコートに入ることを許すレフェリーのハンドシグナルを廃止する。

審判中央研修会●ルール改正質疑・応答

一　交替位置の事について

特になし

二　公示時計による終了の合図について

Q：公示時計のない場合はタイムキーパーが終了の合図をしなければならないか？

A：タイムキーパーが終了の合図をしなければならない。

Q：前半終了または競技終了は時間が来ればそこで終わりであるが、この時フリースロー・ペナルティースローが投げられて、ゴールインする前に終了の合図があれば、攻撃側に不利ではないか？

A：ルールでは時間で終了である。

〈関連質問〉

Q：この時もう一度最後の一投を行なわせるか？

A：行なわせる。

Q：フリースロー・ペナルティースローを行なう前にタイムアップの合図があった時の終了の仕方？

A：最後の一投を行なわせレフェリーが笛を吹いて終わらせる。

三　公示時計は加算式を使用する

Q：体育館では減算式の公示時計しかないところがあるが、減算式ではいけないか？

A：減算式のものしかなければ、それを使用して良い。但し、両チームにそのことを伝えておくこと。

四　ゴールキーパーとコートプレーヤーについて

Q：Aチームが7人攻撃で得点をあげた。Bチームはセンターから、スローオフをしようとしたが、Aチームはまだ正しい位置についていない時の対処は？

A：Bチームがスローオフをする正しい位置につけばスローオフの笛を吹いて差し支えない。

Q：CPと異なる色のGKのベストは何色あっても良いか？

A：何色もあると相手チームの色と重なるので、重ならないように、色をレフェリーが点検する。

〈関連質問〉

Q：レフェリーが点検したにもかかわらずGKが違う色のベストを着て出てしまった？

A：この事の罰則はないのでレフ

ェリーは点検した色のベストで出場させるようにする。

Q：交替の時誤って7名がCPとなったときどうするか？

A：不正入場となる。

Q：Aチームは7名で攻撃中にBチームのボールとなった。Aチームは反則を犯してしまったが、このときGKは攻撃のためゴールを空にしていた場合、従来の通りPTを判定して良いか。

A：従来の明らかな得点のチャンスのケースと同様である。

五　得点後、直ちに得点板に得点を入れる

特になし。

六　レフェリースローをコートの中央で行なう

Q：レフェリースローの時のレフェリーの位置は？

A：レフェリースローを判定した時のセンターレフェリーがスローを行なう。ゴールレフェリーはフリースローライン付近で全体を注視する。

Q：レフェリースローの時、一方のチームが拒否したときどうするか？

A：レフェリースローは必ず両チームが出て行なわなければならないので出るよう促す。それでも出て来ない場合には、チーム責任者に罰則を適用する。

〈関連質問〉

Q：レフェリースローを拒否したので、相手ボールとはならないか？

A：レフェリースローは必ず行なわせる。

〈関連質問〉

Q：チーム責任者に再三促しても出て来ない場合は？

A：チーム責任者は罰則を段階的に適用されるが、それでも出ない場合は大会の管理者にまかせる。

七　ベンチのチーム責任者やプレーヤーが失格になった場合について

Q：コート外で追放があった場合、チームの出場人数は？

A：現行通り、コート外であっても1名減で行なう。

Q：コート外での暴力行為の確認は？

A：競技時間内でレフェリーが確認したものだけを判定する。

八　レフェリーのハンドシグナル19をなくす

特になし。

九　懲罰規定

Q：各連盟により役員の構成が異なるので、懲罰委員会は連盟で決めて良いか？

A：当該連盟で判断して良い。

Q：懲罰委員会の結果、処分は文書で行なうのか？

A：文書で報告し、懲罰委員の名前とサインが望ましい。

Q：高体連で引率責任者が懲罰を受けたときは？

A：当該連盟で検討してほしい。

十　その他

Q：ベンチ規定の、公的な立会人とは？

A：日本リーグでは会場審判長である。

日本リーグ以外の全日本大会では、まだ審判委員会で検討していないので、適用しない。

Q：GKのプロテクターのことについて？

A：日本では禁止していないので、レフェリーが相手に危害を及ぼさないと判断した場合許可している。

★ルールに関して5月にレフェリーシンポジウムがイタリアにて開催されたので、問題があれば正式な通知を出す。また、各種大会で問題点を審判委員会に報告してもらいたい。この回答を全国に流したい。

●第34回全日本実業団選手権大会

男子の部を顧みて

全日本実業団ハンドボール連盟副理事長　吉澤　力男


日新製鋼・西山選手

第34回を数えた全日本実業団選手権大会（男子の部）は大阪で開催され、盛況のうちに幕をとじた。

今回の大会の目立った点は、

(1)この9年間、湧永、大同、大崎、本田でベスト3を独占して来たが、この一角に躍進著しい日新製鋼のくい込み、三陽商会、中村荷役を加え、今後の上位争いが楽しみになった。

(2)例年になく大型新人および新人監督の活躍が目立った。

(3)選手権常連チームに対し、予選のトーナメント大会よりの参加チームの中に、上位チームに善戦するさわやかなチームが台頭して来た。

(4)今回、第3回世界選手権・バルセロナオリンピックの決勝戦をつとめた審判、ボー・ヨハンソン、ベルント・キェルクビストペアを招待し、大会に花がそえられた。

三日間の熱戦の状況を説明すると、結果は平成4年度日本リーグを制した湧永製薬があぶげなく優勝した。湧永にとって、あえて言うと、苦戦したのは二回戦の中村荷役戦で、この試合を、ベテラン玉村・堀田に2年目の全日本のエース・中山がうまくかみ合い、中村の呉の活躍を制し、後半20分で試合を決した。

湧永は、この勢いを持続し、準決勝の大崎戦に楽勝。決勝の本田戦も、湧永のベテラン勢が大活躍し、全く本田につけ入るすきを与えず快勝した。

一方、準優勝の本田は、2回戦の三陽商会戦、準決勝の日新製鋼戦を息づまる大接戦で勝ち抜いた。しかし、決勝戦では元気なく、守りの要・全日本GK橋本もいかんともし難く、前半で勝敗が決した。

対日新製鋼戦は、今大会随一の好試合で、終始日新のリードで後半25分まで試合が進んだが、本田の頑張りで延長に入り、気力の差としか言いようのない展開で本田がせり勝った。

3位の日新は、昨シーズンと大差ないメンバーで、全員に得点力があり、優勝候補の一角にあげられていた。優勝は逸したものの、10年ぶりに3位になった。

その他で特筆すべきは、一回戦の中村対日本電装戦で、日本電装のさわやかなセブンが走りまわり、中村を悩まし、前半同点でおり返し、後半も追いつき延長に入ったが涙をのんだ。日本電装の健闘に対し、大いに賛辞をおくりたい。

本大会は、実業団チームにとって新チーム編成後、初めての大会になる。従って、多くの新人がデビューし、監督も何名かは替わる。

監督では、本田・立木、日新・西山、大同・高村、中村・松本、三陽・田口の五氏が就任されて指揮をとり、各氏とも好スタートを切られた。一方、新人として25名が本大会でデビューし、中でも三陽の２００cm岩本選手、本田の満井選手等の活躍が目立ち、大いに大会を盛　げた。岩本選手はプロ野球の松井選手、Jリーグの三浦選手に負けない素質をもっているので、ハンドボール界の希望の星に育てあげたい。

私は、日本・欧州で審判の判定力に大きな差はないと思って来た。しかし今大会で初めてスウェーデンペアのレフェリーぶりを観察して、その自信、選手に対する説得力、小さな反則も見逃さない判定力に感嘆した。当大会中に開催された両レフェリーによる講習会を生かし、良い技術や優れている点は吸収し、今後の糧にしていただきたく強く期待する。

今大会でも関係者が楽しみにしているパーティーが開催され、参加チームの監督、主将、大会役員、審判、報道、これにスウェーデンペアも加わり、雰囲気は盛り上がった。市原実連理事長、津川元全日本監督、蒲生全日本監督の講話も入り、明日からの試合に向け、あちこちでエールを交換する一幕もあった。

以上、思いつくまま述べたが、今後の当大会発展の一助になれば幸甚に思う。

男子の部■成績表

▼1回戦

三陽商会	22－11	㈱三景
日新製鋼	24－17	北陸電力
中村荷役	31－26	日本電装
トヨタ車体	15－14	本田技研熊本

▼2回戦

本田技研	18－16	三陽商会
日新製鋼	23－20	大同特殊鋼
湧永製薬	20－14	中村荷役
大崎電気	29－15	トヨタ車体

▼準決勝

本田技研	26－23	日新製鋼
湧永製薬	30－24	大崎電気

▼決勝

湧永製薬	26（15－6、11－7）13	本田技研

■3位決定戦

日新製鋼	23－20	大崎電気

■5位決定戦

中村荷役	22－20	三陽商会
大同特殊鋼	34－12	トヨタ車体
中村荷役	21－18	大同特殊鋼

■7位決定戦

三陽商会	30－15	トヨタ車体

■9位決定戦

日本電装	26－18	㈱三景
本田技研熊本	18－11	北陸電力
日本電装	22－17	本田技研熊本

■11位決定戦

㈱三景	23－14	北陸電力

◎個人表彰

〈ベストセブン〉
橋本行弘（本田技研）、玉村健次・河原隆雅・中山剛・堀田敬章（以上湧永製薬）、魚住和彦（大崎電気）、堀田幸夫（日新製鋼）

〈最優秀新人賞〉
岩本真典（三陽商会）

〈最優秀監督賞〉
井藤英忠（湧永製薬）

新鮮・充実の男子の部

全日本実業団ハンドボール連盟常務理事　喜井　美雄

平成5年度全日本実業団選手権大会は、5月14日(金)から16日(日)まで大阪市中央体育館を会場に、男子12チームの参加で開催されました。大きな事故もなく本大会が無事終了することが出来たことに対し、地元大阪協会ならびに関係者の皆様方の御支援、御協力に厚くお礼申し上げます。

本年は、スウェーデンのトップレフェリーの参加、監督の交替、有望新人の多数の加入とフレッシュで充実した大会であったと感じました。

スウェーデン・レフェリーは、2回戦、準決勝、決勝を吹きましたが、的確で納得でき、運動量も多く、日本のレフェリーも感心し、これからの国内に大きな影響を与えてくれたと思います。


湧永製薬・河原選手

試合結果は、ベテランと中堅がうまく噛み合い順当な成績の湧永製薬が、3年ぶり10回目の優勝を果たした。2位には立木新監督が初采配して3年連続優勝は逃したが、準決勝で日新製鋼に延長の末逆転勝利した本田技研が入り、3位には西山プレーイング監督の日新製鋼が入った。4位には伝統の大崎電気。5位にはこれも高村プレーイング監督ひきいる大同特殊鋼。6位には、監督に復帰した松本監督の中村荷役。7位には、有望新人で日本初の2mプレーヤー岩本を擁する三陽商会。以下トヨタ車体、日本電装、本田技研熊本、三景、北陸電力の順位であった。

この大会は、新人の初参加、新監督の初采配、本年度最初のビッグタイトルであり、本年度を占う大切なものであり、各チームとも収穫があったと感じます。

最後に、本大会の関係各位に厚くお礼申し上げ、来年第35回大会に期待を寄せて、私の感想と報告と致します。

女子に新人の台頭あり!

全日本実業団ハンドボール連盟副理事長　横地　宇吉

今回の会場は、愛知県体育館が平成6年開催の「わかしゃち国体」に向けて改装中のため、天白スポーツセンターが会場となった。

今大会は、平成5年度最初の大会で、各チームの補強状況を知るとともに、チーム力を知る絶好の場である。今年は特に、多くの外国選手の補強があり、また多数の国内有力新人選手も登録されている。一方、昨年度日本リーグ一・二部入替戦(平成5年3月)で、一部の大和銀行・大崎電気が、二部の日立栃木・ブラザー工業に敗れる大波乱があり、両者がその結果に対し如何に対処したか、興味深いものがあった。

一回戦は、ブラザー工業、大崎電気、シャトレーゼ、大和銀行が順当に勝ち進んだ。

二回戦は、お互いにチーム力が均衡し、日本リーグ一部復帰の日立栃木、ブラザー工業の生き生きしたプレーが目立ち、ブラザーはジャスコに接戦の末僅差で辛勝。日立栃木は堅い守りでシャトレーゼに勝ち。北国銀行は外国選手の

●第34回全日本実業団選手権大会

金兌英、白水蘭が活躍して、大崎電気に勝つ。大崎電気、注目の朴正林、白仁淑選手は、北国銀行の金、白に比べ動きの堅さが見られ、その差が北国の勝利になった。オムロンは、中国選手を欠いていたが、大和銀行の前半のミスプレーを逆に得点に繋げて勝利。

準決勝戦、北国銀行対ブラザーは立上り互格に接戦していたが、中盤よりブラザー・西が北国にマンツーマンをかけられ得点力を失った一方、北国は白、金を中心として得点を重ね、楽勝。日立栃木対オムロンは、お互いにエキサイトした内容であったが、日立・新井の活躍等により日立に勝ちを呼び込んだ。

決勝戦は、北国銀行対日立栃木の対戦となり、日立栃木は貴田、新井を中心に頑張ったが、北国は金、白の敏捷なプレーで得点を重ね、日立栃木に快勝して初優勝を飾った。


オムロン・田中選手

今大会を振り返って見ると、日立栃木、ブラザー工業の進境と外国人選手の活躍、新人の天真爛漫なプレー等、印象深いものがあった一方、年度始めのためか各チームともミスプレーが目立った。さらに外国人選手の補強によりゲーム内容も変ってきたが、ややもするると外国人選手に頼り過ぎるところもあり、今後の日本ハンドボール界を危惧する面もあったが、優秀な新人の台頭もあり、明るい材料もあった。

この大会により、各チームにはいろいろの課題が提供され、これからの精進により、ますます女子ハンドボールが隆盛することを期待します。


ブラザー工業・中妻選手

女子の部■成績表

▼1回戦
ブラザー工業 41－24 ソニー国分
大崎電気 34－12 ムネタカ
シャトレーゼ 22－16 JUKI
大和銀行 27－14 自衛隊体学

▼2回戦
ブラザー工業 30－29 ジャスコ
北国銀行 24－19 大崎電気
日立栃木 21－18 シャトレーゼ
オムロン 25－16 大和銀行

▼準決勝
北国銀行 38－28 ブラザー工業
日立栃木 26－20 オムロン

▼決勝
北国銀行 34（17－13／17－11）24 日立栃木

■3位決定戦
オムロン 29－27 ブラザー工業

■5位決定戦
大崎電気 18－16 シャトレーゼ

▼7位決定戦
ジャスコ 28－23 大和銀行

▼9位決定戦
ソニー国分 28－18 自衛隊体学

▼11位決定戦
JUKI 28－15 ムネタカ

◎個人表彰

〈ベストセブン〉
GK・古澤さとこ(北国銀行)／FP・金兌英(北国銀行)／同・白永蘭(北国銀行)／同・市木未央(日立栃木)／同・貴田直子(日立栃木)／同・古田千明(オムロン)／同・西朋子(ブラザー工業)

〈新人賞〉
山川由加(ブラザー工業)

〈最優秀監督賞〉
穂積豊彦(北国銀行)

世界一のレフェリーを招いて

第34回全日本実業団ハンドボール選手権大会（男子の部）

全日本実業団ハンドボール連盟審判部長　西村　興八

ヨハンソン、キュルクベスト両氏を招き、本大会を実現し、高い評価を受けたことを、プロモーターの一人として「感動」致しております。

彼らのレフェリングした試合の盛り上がり、及びレフェリー講習会で多数の参加者（約85名）の真剣な態度を見るに、このプロジェクトをプロモートした苦労は吹っ飛んでしまいました。

さすがに世界ナンバーワンのレフェリーで、彼らの態度には終始感銘を受けるものがありました。試合中の3日間は、体育館を離れることもなく、メモを取りながら観戦した姿、試合毎にレフェリーへ助言、及びレフェリーミーティングでのワンポイント・レッスン等、的確なアドバイスには当該レフェリーは深い敬意と感激を味わいました。そして、彼らの3日間のアドバイスのおかげで、全員がレフェリングが素晴らしく上手になったのには驚きました。

やはり世界のレフェリーとして自負したものはあります。実は、大会会期中に大阪城の見学を勧めましたが、観光には全く興味を示さなかったほどでした。彼らと共に交流を持てた1週間でしたが、レフェリー同士の交流ばかりではなく、今後の選手同士の交流への糸口も見出すことが出来たし、遠いスウェーデンと日本との確実な橋渡しの一歩となったことを確信致します。

スウェーデンでも、やはりハンドボールの地位は日本におけるものと同じであり、その発展には彼らは苦労していることも十分聞きました。しかし、彼らもスポーツにおける人の「素晴らしさ」「美しさ」を信じて頑張っている姿を十分に聞かせてくれました。

今回、私がスウェーデンのレフェリーの招聘実現に強く執着した原因として、後藤、島田両氏のバルセロナ・オリンピックの出場火を消すことなく、このイベントで保ち続けたかったこと、そしてハンドボール界になにか「刺激」と「感動」の場を維持したかったことです。



講習会に来日したスウェーデンのレフェリー

幸いにして今回、大塚、後藤両氏の協力をはじめ、実業団連盟、市原理事長の寛大なバックアップが実現の支えになりました。また、開催地として大阪協会の援助、渡辺実連会長、実連諸先輩の数々の協力により、無事予算内で成功させていただきました。皆様方に深謝致します。

実業団連盟も「審判養成制度」を一昨年より採用し、現在24名のB級資格取得者が誕生し、活動を続けています。

さて、今回、大会審判長の立場でスウェーデン・レフェリーのレフェリングの特徴を見ますと、以下のような点が上げられます。

1、ボールのないプレーをよく見ている。
2、レフェリーはプレーヤーの近くにいる。
3、段階的罰の適用が適切。
4、流すところは流している。
5、最初の5～10分で基準の確立。
6、落ち着いた態度。

最後に、レフェリーのレフェリングの向上及び講習会受講者からの感謝の声を多数受けたことを報告致します。

「スコール」「スコール」（スウェーデン語で乾杯の意味）

スウェーデンペアとの四日間

東京都協会　鈴木　慎二

この度、幸いな事に第34回全日本実業団ハンドボール選手権の審判団に推薦を受けた上に、後藤登氏の尽力により招致されたボー・ヨハンセン氏、ベルント・キュルクビスト氏と4日間に亘り行動を共に出来た事は、自分自身にとって非常に貴重な体験であったといえるし、又、ここで自分なりに感じた点、疑問に思った点、そして僭越ながら意見めいた点も以下にまとめていきたいと思う。

まず、その前に私事ながら、実は私はこの3月にスウェーデンで行われた第13回男子世界選手権を観戦に行き、実際にファイナルゲームのロシア対フランスのゲームを両氏が吹かれているのをこの目で見、ビデオテープに収めて来ていたのである。

勿論その当時は、目の前でファイナルを担当している両氏が、そのわずか2カ月後に極東の日本を訪れ、自分と同じ大会の審判団として行動を共にする事など夢にも思わなかった事であった。両氏と最初に話すきっかけとしては、このスウェーデンの世界選手権観戦は大いに役立ったし、直前に〝世界(ヨーロッパ)の笛〟を見ておいた事は、両氏の笛及び指摘するポイントを理解する上で大いに役立った。

そういった前提を踏まえた上で、「世界の笛」について自分なりに感じた点を述べてみたい。

1、ポストエリアにおいてボールと関係の無いファールに対して非常に厳しい。

2、サイドシュートに対するペナルティー・段階罰の適用がはっきりしている。

3、センターレフェリーの運動量が非常に多い。

4、常に、冷静であり、「TOUGH」な態度で試合に臨んでいる。

1・2については、判定の基準の問題であり、3・4については、レフェリーとしての在り方の問題である。

1のポストエリアにおいてボールと関係の無いファールに対する段階的罰則の適用であるが、世界選手権でもそうであったし、実際今回のスウェーデンの両ペアのジャッジングを見てもそうであったと自分なりに確信し、又彼らもミーティング・講習会で強調していた事であり、非常に重要なことではないかと思われる。

現実に自分も前記のファウルに対して、世界選手権観戦以来、特に注意して厳しく罰則を適用してきたが、現実には日本に於いては、ポストへ攻撃側のボールを持たないプレーヤー(サイド・センター等)が侵入する際、防御側プレーヤーが一度手若しくは体でプッシングを行ってから侵入を許すといったケースが多々見受けられた。又それに対して段階的罰則を適用すると、明らかにプレーヤー・トレーナーとも「えっあれが?」と困惑若しくは不満な意思表示をレフェリーに対して表していた。

つまり、自分の経験や実際見聞した事から察すると、日本においては、ボールに関係の無い所での多少のプッシングは許される、といった解釈がなされているのではないのであろうかと思われる。従ってディフェンスの技術の一環として、ポストで移動しているプレーヤーに対するプッシング・ホールディングが許されているのではないかと思われる。

この点、彼らヨーロッパのジャッジングの方がよりルールブックに近く(ルールブックでは、第8条【相手に対する動作】の8の3でボールを持っていない相手に対して許される動作は、胴体で進路をさえぎる事のみである)リーゾナブルである。

2についても1の場合と同様、世界選手権では、自分が見た限りでは「あんな程度でも…」と思える程、サイドシュートを行おうとしているプレーヤーに対する、手や体を使ってのプッシングに対して厳しく段階的罰則が適用されているのを目の当たりにしてきたので、この大会に臨むに当たって自分自身としてスウェーデンのレフェリーがどうさばくのか注目していた点である。

残念ながら、たまたま彼らが担当した試合で、自分が世界選手権で見た様なサイドシュートに対する象徴的な罰則の適用は見られなかったが、私が自分で担当した試合に対する彼らの講評の中で、私が適用した段階的罰則の中でその部分を評価してくれたので、やはり日本より厳しく罰則が、サイドシュートを行おうとしているプレーヤーに対するプッシングに対して適用されていると言えよう。

逆に言うと、日本のハンドボールは、直接ボールと関係の無い部分でのつまらない反則が少し多いのかなという感想を持ったのは、思い過ごしなのであろうか。

以上、判定の基準に関する2点、自分の世界選手権の観戦から、実業団選手権まで「日本の笛」と「世界の笛」に関して、とりわけ強く印象に残った点を挙げてみた。

これらは、レフェリーソサエテ

ィのみならず、トレーナーサイドも一緒になって検討していかなければならない問題である事は、若輩者の小生が主張する迄も無い事であろう。

3・4に関しては、誌面の都合上多くは述べられないが、彼らヨーロッパの一流レフェリーは、よりボールの近くで判定を行う事を心掛けていると言う事であろうし、常にプレイヤーやトレーナーからのプレッシャーに屈しない態度が必要なのであろう。

それは、彼らが講習会で述べていた様にヨーロッパでは、ハンドボールがよりプロフェッショナルな志向を強めている事に影響されているのであろう。

余談ではあるが、フランスのジャクソン・リチャードソン氏は所属クラブ・コマーシャルその他から、月に5万米ドル相当の報酬があるそうである。

最後に、自分が世界選手権で撮影した決勝戦のビデオを彼ら2人に見せられ、更に場面場面での解説を彼らに行ってもらったのは、本当に良い思い出となった。

今後も彼らと出来た交流を大切にしていけるように努力を続けようと思っている。

彼らに、別れるときに渡した色紙に残したメッセージ「See you again in Stockholm」が単なる枕詞にならないように……。

スウェーデンペアが披露したパラダイム

大阪府協会　岸本　光夫

スウェーデンペアによるレフェリー講習会に参加して最も感銘を受けたものは、彼らの〝die Würde(dignity)〟でした。この言葉を独語(英和)辞典で調べると「尊厳、威厳、気高さ、品位」とあり、日本語の一語で完全に言い表すことができないようです。この言葉の問題のために、常々言われてきた「レフェリーの威厳」について私はなかなか理解できませんでした。今回の講習会を通して「レフェリーの威厳」を理解する糸口を探り出せたような気がしました。

スウェーデンペアが実際に吹笛している間だけではなく、講習会のレクチャーにおいても、彼らの威厳を感じました。ゲーム中の威厳は選手やチーム役員の態度に顕著に表れていましたし、遠い観客席からも強く感じることができました。彼らは基本に忠実で丁寧なレフェリングでした。例えば、センターレフェリーは、自分とは反対サイドからのスローインの際など毎回近くまで移動し、また中央付近からのフリースローのときには必ず斜め後ろに位置取り、この原則を守らなかった場面は一度たりとも見受けられませんでした。反則が起こったときも必ず近くで判定していました。私も頭では理解し心がけてはいることばかりですが、ときに怠り、また間に合わないことがあります。これらのことを1試合通して完璧に履行する彼らの態勢と能力に驚嘆しました。

講習会の模範演技で彼らが私に向かってイエローカードを掲げたとき、威光を感じさせられましたが、威圧感はありませんでした。その眼は「今あなたは反則を犯しましたね」と私に厳かに語りかけているようで、思わず素直に「はい」と返事して自然に手が挙がりそうになりました。一方、イエローカードは私のみでなく会場全体にも通告しているように見受けられました。私のレフェリングのビデオを見直すと、「何てことをするのだ」と怒っているか、またあるときには「これは反則と取られても仕方がないよね」とよそよそしく振舞っているように見えました。ジェスチャーもまだまだ研究しなければならないことが沢山あると考えられました。

講習内容は、すでに我々が知っていることもありましたが、その解釈・説明が実に簡潔・明解であり、理論の運び方と講義のうまさに驚きました。例えば、チャージングとは、先に位置取って止まっているディフェンスプレイヤーにぶつかっていくこと(非常に単純な理論)であり、接触の角度や正面で受けるなど当然ながら一切言葉に出ませんでした。詳細は報告書に委ねさせていただきますが、彼らのジャッジを裏付ける確固たる理論は理路整然としていて真に理解し易いものであり、明晰な頭脳から繰り出される説明は説得力に満ちたものでした。

私が最も知りたかったことは、文化・伝統の違いに起因するのであろう、日本とヨーロッパ諸国におけるレフェリーの相違点でした。彼らの解答は、「ゲームの雰囲気が違う。日本のゲームはフレンドリーだが、ヨーロッパでは勝利に対する執着が数段強い、小さな戦争と言っても過言でない状況も時にある。」でした。私なりの解釈では、クラブチームの選手やトレーナーはプロフェッショナル同然で生活を懸けて試合に臨み、この状況は経済富国日本で生活する我々には思いもよらないくらいシビアなも

のだと想像されます。また、ヨーロッパ諸国は隣国と地続きという地理的背景と、ドイツを筆頭に複合民族国家が多く、単一民族国家はむしろ少ないという歴史的背景から、国家意識と同じくらい民族意識も強いと考えられます。民族が異なれば文化・伝統も異なるわけで、国内試合でも民族の名誉を懸けての戦いが展開されると思われます。

国内大会と言えども、アジア極東選手権に匹敵するくらいの民族意識のぶつかり合いが繰り広げられるのでしょう。従って、このようなバトルを管理していくには、彼らのようなレフェリーが必要なのかもしれません。我々が感じた崇高さは、身長や頭髪・眼の色と言った風貌に起因するものではなく、彼らが自らの人生の中で築き上げてきた人格そのものにあると考えられました。

彼らは、他のレフェリーへのアドバイスのために一日中真摯な態度でゲーム観察をしていましたし、レフェリー控室にいるときもロビーを歩くときも礼儀正しく、紳士で、品格の高さを感じました。レフェリングの理論的構築のみならず、これら全ての面に認められるように、素晴らしい人格的価値(品位・気高さ）と厳かさ（尊厳・威厳）の双方も極めてこそ、"die Würde" あふれるレフェリーであろうと思われました。

最後になりましたが、全日本実業団連盟の役員諸氏の多大なるご尽力のおかげでこのような貴重な経験をさせて頂き、我が日本にもかなりの情報と理論が積み上げられてきました。

しかし、まさにレフェリーのパラダイムを目の当たりにすることにより、ヨーロッパ諸国とは異なる文化の中で育った我々レフェリーは大きな財産を得ることができました。

レフェリー界のみならずハンドボール界全体の発展のためにも是非是非、今後ともこのような講習会を企画下さいますよう宜しくお願い申し上げます。

トップ・レフェリー研修会に参加して

東京都協会　佐藤　和孝

まず初めに、このような研修会を設けて下さった日本協会ならびに全日本実連の審判部に感謝の意を表しておきたいと思います。

今回の研修会は、全日本実業団選手権のレフェリーとして紹聘したヨハンソン、キュルクベストの両氏を講師として行われたものである。今までも海外の優れたレフェリーが来日することは何回かあったが、このような公式の研修会が広く呼びかけられたことはなかったと思う。

関係者のご苦労は大変なものだったろうが、このような有意義な研修会が実現したことは素晴らしいことだと思う。また、研修会以外の場でも両氏に接することができたのは誠に幸運だったと考えている。研修会の全体的な内容については、別途、詳細な報告があるということらしいので、私にとって印象に残った点についてだけ述べてみたい。

研修会は主として年長のキュルクベスト氏が話をする形で進んだ。発言は英語で行なわれ、光島先生の通訳で我々は内容を理解するわけだが、キュルクベスト氏の英語はゆっくりとして分かりやすかった。また、全体として、通訳との意志疎通などにも配慮されていたようで、研修会を実りあるものにしようとの意気込みがよく感じられた。

内容の全体を通してみると、例えば段階的罰則の適用についての考え方など、従来から日本で伝達されていた内容のものも少なくなかった。しかし、それが彼等のような世界のトップレフェリーから語られることで、また別の重みが感じられたのも事実である。言い換えれば、最近よく言われている「日本におけるよい審判は、世界においてもよい審判である」ということが確認されたような気がした。

個別の事項では、まず冒頭に「日本のレフェリーはｇｏｏｄだが、もっとａｎｇｒｙになれ。我々ヨーロッパでは、今よりずっとａｎｇｒｙである」と発言されたことには少し驚いた。これは現在のヨーロッパでのハンドボールが、日本に比べてさらに激しい闘いになっていることを感じさせるもので、大変に興味深かった。

その後の両氏の発言の中でやや新奇に思われたことが2点ある。両氏は、センターレフェリーの注意事項として「ゴールエリアの周辺で全ては起こる(everything happens)。ゴールから遠いところでの球回しでは、何も起こらない。」と指摘された。ゴールエリアの周辺のオフェンスとディフェンスが関わり合うところを特に注目すべきで、エリアから遠いところで回されているボールは視野の端に入れておけば充分である、という指摘である。

日本では、センターレフェリーの動きとして「ボールを追う」という考え方が指摘されることが多

いので、ある意味では両氏の指摘とは矛盾するように見える。要はプレー全体の中でどの部分を判定するのがレフェリーの主要な任務なのかを考えよ、という意味と考えれば、同じことだとも言えるが、私にとってはやや新しい視点からの指摘と感じられた。

もう1点はアドバンテージについて「速攻のケースでは3回以内のパスでシュートに到達しないときには、アドバンテージを考えるな」という、具体的な指摘があったことである。勿論これを杓子定規に適用するべきではないだろうが、一つの目安として面白い考え方だと思った。

そのほか、質問に対して答える形であったが、試合におけるジャッジングについての話題以外に、スウェーデンにおいてはレフェリーの研修がどのように行なわれているか、彼等がどのくらいの試合を吹いているのか、といった話もあり、これも面白いものだった。また、試合当日におけるレフェリーとしての精神的・肉体的準備についても、「2時間前に会場に着いて…」等々と詳しく述べられ、これもそのまま真似するわけにはいかないだろうが、心構えとしては大変参考になるものだった。

さて与えられたテーマからはややそれるが、研修会以外の場面、実業団選手権のレフェリーとして行動していたときのことにも若干触れておきたい。彼等は日常においても極めて友好的であり、また、レフェリーとしての誇りを持って行動していたように思う。

本大会のほぼ全試合を観戦し、必要に応じて、その都度レフェリーにアドバイスを与えて下さっていた。しかも彼等は、それをまるで自分たちの「任務」であるかのごとく考えていたようである。

大会2日目、彼等の担当するゲームが午後だったので「近くの大阪城を観光してきてはどうか」と提案されたときに、「自分たちはレフェリーとしてここに来ているのだから」と言って、丁重に断っていた。これには参加していたレフェリーの多くが感銘を受けていたように思う。

このように、研修会そのものだけでなく、大会期間全体を通して彼等から学んだものも少なくなかった。その意味では、全日本総合のような日本のトップレフェリーが集まる大会でなく、我々のような「普通」のレフェリーも参加する実業団選手権に紹聘していただいた意義も大きかったと思う。少なくとも私にとっては非常に大きな経験であった。

初めに述べたように、今回のレフェリー紹聘と研修会の実施は極めて有意義であったと思う。今後も年間1ペアくらいをいずれかの大会に紹聘しようという機運があると聞くが、これは是非とも定例化して欲しいものである。費用の点や関係者のご苦労など、問題点は少なくないと思うが、どうか今回の事例が「特例」とならないように日本協会には心からお願いしたい。

偉大なレフェリーを見て

日鐵建材工業㈱　鳥羽　勇

私が今回の、ボー・ヨハンソン氏とベルント・キェルクベスト氏の両レフェリーが第34回全日本実業団選手権のレフェリーをするために来日すると知ったのは、4月中旬の頃で、その時の私自身の気持ちは一度だけでも真近で他国の方のレフェリングを見たいと思っていて、今回の大会でヨハンソン氏とキェルクビスト氏がレフェリーをする試合は、会社を休んでも見に行こうという気持ちで胸が一杯になりました。

それから私は5月14日が来るのをワクワクするような気持ちで待ちました。

その5月14日、私はオフィシャルとして大阪市立中央体育館に行き、スウェーデンレフェリーが出場する試合「大同特殊鋼対日新製鋼」の試合が来るのを待ちました。



試合が開始する前のスウェーデンレフェリーは、うまくいえませんが、なんともいえない貫録があったように私は思いました。やはりその独特の貫録が出てくるようになるまでは、数々の経験や修羅場をくぐりぬけてきているのだろうな、とも同時に思いました。

その大同特殊鋼対日新製鋼の試合が始まると、やはり笛の吹くタイミングやレフェリングする位置の取り方がとても上手だと思いました。この試合は日新製鋼が勝ったのですが、スウェーデンレフェリーのレフェリングのうまさで、試合がとてもスムーズに進んだと思いました。

その次の日は審判講習会があり、まず、ヨハンソン氏とキュルクビスト氏のスウェーデンレフェリーの審判される試合見学から始ました。その日は日新製鋼対本田技研を審判されたのですが、私の他に約40名位、審判講習会に参加されていたのですが、みなさん両スウェーデンレフェリーのレフェリングを関心するような感じで見ているように私は思いました。私はまた改めて両スウェーデンレフェリーは偉大なレフェリーだと思いました。

その後、東興ホテルに場所を移して両スウェーデンレフェリーの講議がありました。私も含めみなさん目を見入るように二人の講議を聞いているような感じがしました。

レフェリーのジェスチャーの仕方や日本で実際に審判されて、スウェーデンで審判している時と違う点など、いろいろ聞かせてもらいました。私はまだB級を取得して一年なのですが、A級の試験にチャレンジする時に、今回行われた審判研修会で得たことを少しでも勉強し、試験にチャレンジしたいと思います。

今回の審判研修会は、私にとってとても勉強になりました。またこのような講習会があれば、ぜひ参加したいと思います。

女子ナショナルチームの
自衛隊相浦駐屯地生活体験入隊から

トレーニングドクター　西山　逸成

　全日本女子ハンドボールチームは、平成5年5月19日から24日までの5泊6日、陸上自衛隊相浦駐屯地で精神面の強化を主眼としたトレーニング（表1）を実施した。緒方監督の狙いとする点は、1996年アトランタ・オリンピック参加を果すために3月に編成した新生チームに対して、ソウル、バルセロナを制覇した韓国チームをターゲットに置く前段階としての、体力・気力とくに競い合いのプレッシャーに勝ち抜ける逞しさを体得・滋養することにあった。

　したがって、訓練内容は、ハンドボール練習は1日2時間程度に止め、他の種目は駐屯地訓練施設を使用した障害走、弓張岳（標高364m）の駈足登山、銃剣道および体力測定等を主として陸曹候補生（旧軍隊の下士官候補者）の必須要件としての強靱な体力・気力の養成種目を取り入れた。期間中の訓練姿勢としては、常に新隊員・陸曹候補生等日夜厳しい生活起居や訓練に接触した環境下で、逆境下のチャレンジ精神へのアタックを重視した。

　障害走では、起伏のある不育地に設けられた各種障害（バランス崖、綱のぼり、擂鉢地獄、囲壁、高肋木、手留弾投てき等）を恐怖心・胆力・克己心・決断力等諸種の精神的要素との葛藤の中で速さと持久力を要求した。

　山岳走では、入隊翌朝に早速急坂弓張岳にアタックし、さすが全日本女子ハンドボール選手だとその全身持久力水準の高さを部隊関係者から評価を受けた。

　銃剣道では、スポーツ競技としての防具訓練を実施し、第3教習（ハンドボールのノックを用意）を通じて、激動時（最高心拍数180～190拍／分）における正しい動作、飽くなき闘争心の維持、冷静な判断力そして瞬発力・敏捷性の持続能力の一方法として、地面に倒されても立ち上る気力を強要された。



　体力測定（表2）では、陸上自衛隊の体力検定基準（男女同一）を実施した。種目は、50m走、走幅跳び、懸垂、1500m走の4種目であり、選手の級区分（1級～10級）では、4・5・6級に分布し、当然新入隊婦人自衛官よりも高い体力が確認できた。級別傾向では4級6名、5級8名、6級5名であり、若年選手に低体力傾向が伺える。

　4級6名の総合体力では、1992年度最優秀選手の比嘉選手を筆頭に、小俣、西口、上出、谷本、村山の順で200点以上をマークした。種目別では、ベテランのGK村山選手が高い敏捷性と瞬発力を示しており、上腕筋持久力では比嘉・小俣、全身持久力では、田中・小原・西口がそれぞれ高値を示し、新人群では、上出選手が総合4位を占めたが、ナショナル選手が共通した弱点の上腕筋持久力のさらなる向上に期待したい。今後チームづくり上の期待としては、当然打倒韓国を果すためには、オールラウンドな基礎体力・積極果敢なガッツ養成が先決である。

　今回第3教育団（小袋正次郎教育団長元防大ハンドボール部主将）に体験入隊が得られた背景には、男女の新隊員、陸曹候補生、上級陸曹等多くの課程教育人員を抱えながら、敢えて駐屯地収容人員の許容を越え、かつ5泊6日の長期間体験入隊の合宿が受け入れられた背景には『ナショナル女子選手が韓国より強くなって欲しい！戦う以上は強くなければならない。強くなるためには、今迄やってきたこと、今やっていること、今からやろうとすること等に手抜きしない、目を反らさないでやって欲しい。その一助として、国の機関としての相浦自衛隊が可能な限りの支援をしましょう』との配慮と理解したい。強化に役立つ可能性のあることは時間の可能性と選手個々の「ヤル気」その条件構成さえできておれば、必ずや良い結果が出るものと信じたい。選手の努力にも拍手を！

表1　トレーニング・スケジュール

	0830–1200	1200–1300	1300–1700	1700–1800	1800–2000
19(水)	移　動	(昼食)	宿泊準備・隊内案内	(夕食)	ハンドボール
20(木)	駈足登山・基本教練		障害走・銃剣道		ハンドボール
21(金)	体力検定・障害走		障害走・ハンドボール		ハンドボール
22(土)	基本教練・銃剣道		障害走・ハンドボール		反省会
23(日)	基本教練・障害走		ハンドボール・(模範試合)		ハンドボール
24(月)	市内見学・整理		離隊・移動		

表2　体力測定結果（陸上自衛隊体力検定基準）

順位	50M走（敏しょう性）	走幅跳び（瞬発力）	懸垂（上腕筋力）	1,500M走（全身持久力）	級・総合得点
1	松本③級64点	村山④　55	比嘉②　70	田中②　73	比嘉④　231
2	小俣③　60	比嘉④　52	小俣②　70	山尾②　72	小俣④　227
3	村山④　57	上出⑤　47	谷本③　60	西口②　71	西口④　213
4	上出④　50	松本⑤　47	荒川④　56	比嘉③　62	上出④　212
5	古沢④　50	小俣⑤　45	伊佐野④　54	上手③　61	谷本④　210
6	西口④　50	松下⑤　43	村山④　52	伊佐野③　60	村山④　204
7	田中④　50	谷本⑤　41	西口④　52	谷本④　59 松下④　59	伊佐野⑤　198

女子ナショナルの 自衛隊体験入隊記

★5月20日

谷本　泉

自衛隊での初日一番のメニューは、駆け足登山だった。思っていた様に行きの登り坂は、自分との格闘だった。足もだんだん軽快さもなくなり、今にも歩くスピードに近くなることもあったが、「ここで歩いては意味がない。完走を目指さないと」という気持ちが出てきた。

頂上に着いた時は、見晴らしもよく、走ってきてかいた汗が、風に吹かれとても清々しかった。帰りは、下りということもあって、元気よくゴールできた。

＊　＊　＊

田中美音子

はじめて自衛隊で合宿をしました。朝は朝礼からはじまり、まわれ右などの基本動作を習いました。そのあとの駆け足登山では、往復12キロの道のりを完走しました。正直いってすごくしんどかったです。

行きはあんなに苦労して登ったのに、帰りはスムーズにゴールについてしまい、やり遂げた達成感とあっけなさが混じった気持ちでした。一日がすごく長く、しんどかったです。

＊　＊　＊

田中　里美

第一日目は、基本動作、駆け足登山、障害走、銃剣道と、初めて体験するものばかりで戸惑いもありましたが、みんな真剣に取り組む事が出来たと思います。特に駆け足登山はつらく、最初は話をしたりする余裕もありましたが、だんだん顔は真剣になり、一つの団体がばらつき始めました。しかし、最後は全員完走する事が出来、充実感いっぱいで終わることができたのでよかったです。

＊　＊　＊

西口　貴子

ここへ来て2日目。今日の一番苦しかったメニューといえば、駆け足登山でした。山頂までの道のりは、約6キロ。曲がりくねった急な坂道を、みんなで励まし合いながら45分程かかって登り、帰りは下りのため25分程で走って帰ってきました。「しんどい」を連発しながらも、全員、スタッフも含め完走できて本当に良かったと思います。

★5月21日

比嘉　晴美

トレーニングの内容は、午前体力検定、障害走見学及び測定。体力検定は幅跳び、懸垂、50m走、１５００m走の4種。皆個々のタイムに挑戦した。

午後はいよいよ障害走。見学時の隊員にエールを送っていた時の笑顔は消え、真剣そのもの。結果は障害のところで尻もちをつきながらも、午前中綱を登れなかった人たちもクリアし、完走。合宿中途の疲労困ぱいの中のトレーニングは、精神的に力になった。

＊　＊　＊

貴田　直子

自衛隊の訓練を始めて2日目。今日は朝から体力検定で、皆、前の日の夜から「何をやらされるのだろう」とかなり恐れていた。

種目は走り幅跳び、けんすい、50m走、１５００m走の記録をとった。全員、昨日の登山走で（自分も含めて）、かなり疲れている様で、とり終わった後は全員結構ばてていた。

そのすぐ後に、障害物走とあって、「どうしてこんなにきつい事をしてるんだろう」と文句を言ったりするけれど、やり始めると必死になって一つ一つ種目をこなして、最後は力をふりしぼってゴールする。こういう事から何かを得るのだろうと思う。

訓練中は、「こんな所二度と来たくない」と思うが、この5日間は一生のうちでも貴重な体験となるだろうし、力の限り頑張りたいと思う。

＊　＊　＊

松本　恵美

合宿も3日目となり、体も疲れ始めてきた中、今日は体力検定、障害走、ハンドボールの練習があった。中でも障害走という訓練は、自分にとって一番つらいものだった。より早く、より正確に障害をクリアしていきながら、二人一組でタイムを競いあいながら自分の限界まで走り切った。最後まで走り切れた事が、自分にとってすごくうれしかった。

★5月22日

伊佐野実保

障害走のタイムを今日もとりました。昨日は1周だったので、今日も1周かと思っていたら、2周だと聞かされた時には驚きました。

昨日の夜、雨がたくさん降り、今日は水たまりも多く、滑りやすかったのですが、そんな中でも正確に動作を行わなければいけない所をハンドボールにも生かしていきたいと思います。

＊　＊　＊

荒川　裕子

今回の合宿で最もつらかったのは、障害走という訓練だった。約１１００mのコースの中にいろいろな障害があり、それをいかに早く正確にクリアできるかというもの。タイムレースなので、つらくなって止まることはできず、とにかくゴールまで走らないといけない。3日目の今日は、そのコースを三周走るという厳しい訓練。緒方監督も参加して、全員無事完走。でも明日は三周という予告が…。

＊　＊　＊

小俣　訓子

自衛隊での合宿も4日目に入り、銃剣道も障害走も昨日までよりレベルが上がったので、辛さが増して、訓練という物がどの位大変なのかがよく分かった。銃剣道では、アップのサーキットで疲れてしまい、障害走では、障害までのランニングで力を出しきってしまうので、肝心な所は精神力でこなしていくしかない状態だった。自分の限界というものに触れた気がした。

貴重な経験をさせてもらったと思った。

＊　＊　＊

村山みどり

相浦駐屯地では、銃剣道と障害走という訓練を体験しました。銃剣道では、面や胴をつけて基本動作や突き方などを教わりました。障害走では、一周１１００ｍのコースを二周して記録をとりました。隊員の方たちは、鉄製のヘルメットと銃を装備して走るそうですが、私たちは普段の練習着という軽装で走りました。それでもかなりハードで、二周が終った時にはかなり息が切れました。

今回のこの訓練で得たことを、少しでも自分のハンドボールに生かしていきたいと思います。

★5月23日

上出恵美子

今日は高校生男子と模範試合をした。自衛隊のグラウンドにコートを作って、外で試合をしたが、いつも体育館で練習している自分たちにとっては、外での試合はすごくやりづらかった。男子はスピードやパワーがあり、それについていけず押されぎみでしたが、後半は自分たちのペースで試合を運べた。結果、38－13で勝ちました。

＊　＊　＊

山川　由加

今日は、佐世保西の男子チームとゲームをしました。アウトコートなので、フェイントもあまりうまくいかないし、シュートもあまり決まらなかった。しかし、どのような条件でも互い同じなのだから、その中でも自分たちのプレーができるようにしたいです。訓練は今日でおわりましたが、これからもこの苦しかったことを忘れないで行動していきたいです。

＊　＊　＊

古澤さとこ

今日の午前中は障害走で、きのうのタイムより１秒でも縮めなければやり直しだということで、力んで走り、１分以上縮めた人が多かったと思います。それは今日で最後だという気持ちも入ってたと思う。

午後は佐世保西高と模範試合があり、スピード、耐久力のある男子と、前半13対10と苦戦しましたが、後半は村山さんのナイスキーのおかげで38対13と圧勝することができました。

＊　＊　＊

川島ゆう子

昨日に続き、朝から障害走（２周）が行われた。昨日より１秒でもタイムの悪い者は、再度行うとの事で、皆必死。最後の力をふりしぼり、全員昨日よりタイムが縮まっていた。

私自身一人で臨んでいたらくじけていたと思うが、仲間も同じ事をやり、同じ苦しみの中で頑張っている事を考えたら、すごく頑張れた。こういう体験で得たいろいろな事は、必ずどこかで自分たちに大きなものとなり返ってくる事を信じたい。

★まとめ

松下由紀子

一つのメニューが終われば、休む間もなく次へのメニューが組まれていて、最後にはハンドボールと…。

終ってみての感想は、やはりきつかったの一言だ。集団行動の難しさや、速さと正確性など、直接は関係ないけれど、この５日間の合宿で訓練した事が、これからの生活の中で役立つように頑張っていきたいと思う。

＊　＊　＊

山尾　陽子

初めて自衛隊の生活を体験し、特に障害走ではどんなにきつい障害でも乗り越えないと次には進めないし、少しでも油断するとケガにつながるので、みんな必死でした。

この訓練では少し違えると命にかかわりますが、ハンドも同じで、少しのミスが失点もしくは負けにつながる。

今回の合宿が、自分にどのようにプラスになるかわかりませんが、苦しい時にこそがんばれる選手をめざしていきたいと思います。

＊　＊　＊

広瀬喜代香

この５日間、普通の人ではなかなか体験出来ない訓練をすることができ、自分自身、たいへんよかったと思います。

ここでの訓練は、全部自分との戦いで、その種目をやりこなせた時は、今までと違った自分になれた様な気がします。

この体験を、これからのハンドボールに、何かひとつでもいかせたら良いと思いました。

＊　＊　＊

西　朋子

20日から23日の４日間、朝から夜の消灯まで、分刻みの生活・行動、自衛隊訓練、ハンドボール…。自分たちが日々過ごしていた生活リズムとは比べようにならない程で、初日はとまどいながら行っていた訓練にも、最終日になれば「今日の障害走は２分縮めよう」などという言葉も出ていたのだからビックリした。自分自身「もうダメ。ついていけない」と言いながら、しっかりと頭の中では目標タイムやロープ登りのことを考えていたくらいである。

今回の経験した事は、直接ハンドボールには関係ないことかもしれないけれど、少しでも生かしていけるようがんばろう。又、私たち選手を一生懸命ご指導・ご協力頂いた相浦駐屯地の自衛官の方々に心より感謝いたします。

ドイツ研修レポート

同時期に各大会が同時進行

田口　隆

今回は、ドイツで行われている各大会について報告したいと思います。

まず、ブンデスリーグですが、これは日本で行われている日本リーグにあたるもので、18チームが参加し、9月から翌年の5月まで続きます。2回戦総当たりで、1チームが行う試合は34試合。そのうち自分のチームの本拠地で行うものが17試合あります。日本の約2・5倍の試合数を行うため、期間も自然と長くなり、観衆も多く、試合を楽しむことが出来ます。

次に、日本でいう全日本総合にあたる大会もあります。これは、日本の様に一定の時期に一つの場所に全チームが集まり、大会を開催するものではなく、カード毎にどちらかのチームの本拠地で試合を消化していき、これも翌年6月までかけて行われます。

もう一つ、全チームが対象になる訳ではないのですが、ヨーロッパのクラブ対抗のトーナメント戦で、各国代表が1カードにつき、ホーム・アンド・アウェイで戦い、そのトータルで勝ち上っていきます。このトーナメント戦は3つの大会があり、前年度の各国のリーグでの順位によって、出場する大会が決まっていきます。

私がお世話になっているDormagenは、ブンデスリーグはもちろんのこと、ドイツ選手権、ヨーロッパ選手権（IHFカップ）にも勝ち残っていて、ドイツ選手権は現在ベスト8。ヨーロッパ選手権は決勝まできています（5月中旬）。

全ての大会が並行して行われているのも、日本と違ったシステムであるので、ある時期のトレーニング及び試合の行われた日程を紹介しましょう。（別掲）



4月19日	(月)	トレーニング
20日	(火)	トレーニング
21日	(水)	ドイツ選手権（対Suhl）
22日	(木)	トレーニング
23日	(金)	トレーニング
24日	(土)	ヨーロッパ選手権準優勝（対Lentershansen）
25日	(日)	休日
26日	(月)	トレーニング
27日	(火)	トレーニング
28日	(水)	トレーニング
29日	(木)	休日
30日	(金)	トレーニング
5月1日	(土)	ヨーロッパ選手権準優勝（対Lentershansen）
2日	(日)	トレーニング
3日	(月)	トレーニング
4日	(火)	休日
5日	(水)	ブンデスリーグ（対Lemgo）

以上の様に、約2週間のうちに、ブンデスリーグ、ドイツ選手権、ヨーロッパ選手権と行われることもあります。

試合が多く、行っている選手たちは大変だと漏らしていましたが、現場の人々にとってそれが良いか悪いかはさておき、観戦するファンとしては、自分が応援するチームの試合を多く、また違う角度から見られるというのも、一つの魅力であるため、多くのハンドボールファンがいるということも事実であります。（各試合毎にその試合用のパンフレットがあるのも楽しみの一つでは!?）

第1回全日本教職員ハンドボール選手権大会 マスターズ大会の開催について

大会要項

1. 趣　　旨　本大会は永年に渡り、我が国のハンドボール界の次代を担う青少年の指導・育成と共に、自らの技術を高めるための努力を続けてきた別に定める年齢以上の教職員が一堂に会し、親善交流のゲームを通して互いの努力を讃え、生涯スポーツとして楽しみ、親睦と友情を深めることを目的とし、あわせてハンドボールのさらなる発展と普及を願って開催するものである。
2. 主　　催　全日本教職員ハンドボール連盟
3. 後　　援　愛知県教育委員会、豊田市教育委員会、(財)愛知県体育協会、(財)豊田市体育協会
4. 主　　管　愛知県ハンドボール協会
5. 期　　日　平成5年8月10日(火)〜8月11日(水)
6. 会　　場　中京大学豊田学舎大体育館
7. 試合方式　予選リーグ及び順位決定戦
8. 試合時間　20分—10分—20分
9. 参加資格　各都道府県協会を通じて平成5年度日本ハンドボール協会への登録をした男子・女子であること。但し、男女とも年齢制限を設ける。男子は40歳以上とし、チーム編成上、38歳以上の選手を2名まで含むことができる。女子は35歳を下限とする。
10. 参加人員　①役員は、部長、監督、コーチ、マネージャーとし(コーチ又はマネージャーの何れか2名迄可)、5名以内とする。
    ②選手は、1チーム16名迄とし、申し込み後の選手変更は認めない。
    ③選手の背番号は、No.1〜16の通し番号とし、申し込み後の背番号の変更は認めない。(試合は16名を出場可とする)
    ④各チームは、チームを代表する責任者として部長(顧問)また監督を付添いとすること。
    ⑤申込書により登録された役員、選手以外は大会中ベンチに入ることができない。
11. 参加申込　①期日　平成5年6月12日必着
    ②申込先　〒362　埼玉県上尾市原市2800　県立上尾沼南高校内　全日本教職員ハンドボール連盟事務局
    ☎048-722-1246

生涯ハンドボールを目指して

教職員連盟マスターズ担当　小山　哲央

教職員連盟では、会員のマスターズ大会開催を希望する声に、教職員選手権大会に参加した役員選手にアンケートをとった結果、93・8％の開催賛成の回答を得、理事会で検討を重ねてきましたが、この度、愛知県協会、豊田市のご協力により開催する運びとなりました。

記念すべき第1回大会が奇しくも、第1回全日本総合選手権大会が開かれた愛知県で開催できると言う事は、何とも意義深いものであると感じております。

世界に互せる頂点のハンドボールもさることながら、生涯スポーツの叫ばれている現在、ハンドボールも子から親へ、親から祖父母まで、広い階層での集いとしようではありませんか。

より盛大に、より有意義に開催できるよう先輩方の数多い参加を願って止みません。なお、要項は次の通りです。

新登場

国際情報

今月号から国際情報のページを設けました。筑波大学ハンドボール研究室のご協力によるものです。IHF、AHFのニュースも随時掲載していきたいと考えています。読者の皆様方からの情報もお待ちしています。

95男子世界選手権の参加資格

95年アイスランドで開催される男子世界選手権大会の参加資格は、次の通りに決定した。

93年世界選手権大会1位から8位、開催国1、93年世界選手権大会10位から12位の所属する大陸から推薦3、4大陸（アフリカ、アジア、ヨーロッパ、パンアメリカ）代表各3チームの合計12チーム。

（参考）93年大会では、次期開催国のアイスランドが8位になったので、開催国の枠はなくなり、9位が繰り上がる。従って、各大陸推薦の3、各大陸代表12以外の参加国は次の通りとなる。

1、ロシア
2、フランス
3、スウェーデン
4、スイス
5、スペイン
6、ドイツ
7、チェコスロバキア
8、アイスランド
9、デンマーク
10、ヨーロッパ大陸推薦
11、ヨーロッパ大陸推薦
12、アフリカ大陸推薦
13、アジア大陸代表
14、アジア大陸代表
15、アジア大陸代表
16、ヨーロッパ大陸代表
17、ヨーロッパ大陸代表
18、ヨーロッパ大陸代表
19、アメリカ大陸代表
20、アメリカ大陸代表
21、アメリカ大陸代表
22、アフリカ大陸代表
23、アフリカ大陸代表
24、アフリカ大陸代表

IHFへ加盟予定の国!?

バルセロナでの会議で、多くの連盟が加入し、IHFのメンバーは129カ国となったが、次回のオランダにおける会議では、次の諸国が加盟すると思われる。

アフガニスタン、チェコ、スロバキア、マラグイ、マレーシア、マルタ、マケドニア、ニカラグア、北アフリカ、タドキスタン、ベトナム、ザンビア、ジンバブエ

トップレフェリーが8月にルーマニアへ

IHF審判委員会の決定によれば、今年のトップレフェリーのトレーニングコースは、8月11日より15日まで、ルーマニアで開催することとなった。

IHFチーフレフェリー・シンポジウムは、イタリアで5月24日から29日まで開催され、日本からは大塚審判委員長が参加した。

コーチシンポジウムはドイツで開催

IHFのコーチシンポジウムは、5月29日から6月4日の間、ドイツのジュセルドルフで開催。日本からは大西指導委員長及び蒲生・田口両ナショナルスタッフが参加する。

IHFの93～95年のイベントの予定

◎会議
・94年　オランダ
・95年　アトランタ・オリンピックに先だって（場所未定）

◎シンポジウム
・チーフレフェリー・シンポジウム（詳細前記）
・コーチシンポジウム（詳細前記）
・女子コーチシンポジウム＝8月23日～29日（オーストリア）

◎世界選手権
93年・男子ジュニア＝9月8日～18日（エジプト）
・女子ジュニア＝9月1日～15日（ブルガリア）
・女子世界選手権＝11月24日～12月5日（ノルウェー）
95年・男子世界選手権＝2月15日～（アイスランド）
・男子ジュニア＝9月1日～20日）（ギリシャ・予定）
・女子ジュニア＝9月1日～20日（未定）
・女子世界選手権＝11月25日～12月15日（未定）

その他の情報

◎フランスの国際レフェリーのジェーン・レロング、ジェラルド・タンクレッツ、ドイツの国際レフェリーのハンスユンゲル・ゴットシュリッヒとペーター・ユルクジクが国際舞台から引退した。

◎スペイン協会の会長ジェスス・ロペス・リゴンドはドミンゴ・ゴンザレスと交替した。

◎ミニハンドボールについての国際ミーティング（欧州6カ国）が92年12月に開催された。この会合において、IHFに対し委員会を作り、ミニハンドボールの位置付けを明確にするよう申し入れることとした。



秋田県ハンドボール協会



本県ハンドボールは、第16回国民体育大会（昭和36年開催）を控えた昭和32年に、当時県教育庁保健体育課長であった武田兼治先生（初代会長）を中心として創設され、以来36年の歳月が経過しようとしております。

その間、昭和41年の秋田和洋女子高校のインターハイ優勝、国民体育大会の第3位入賞。44年のインターハイ、国民体育大会の第3位入賞。46年にはインターハイにおいて、男子の湯沢高校の優勝、秋田和洋女子の準優勝、さらには、国民体育大会における秋田和洋女子の優勝。47年、湯沢高校のインターハイ準優勝。48年、49年の湯沢高校のインターハイ連続の第3位入賞。50年国民体育大会において男子大曲農業高校を中心とした全秋田が第4位入賞。56年記念すべき第1回全国クラブ選手権大会において男子湯沢クラブが優勝。同年、国民体育大会において女子大曲農業高校が第4位入賞。62年インターハイにおける女子大曲農業高校の準優勝といった、全国大会における実績が残されている。

全国的イベントは、昭和36年の秋田まごころ国体、59年の秋田・湯沢インターハイ、62年の第7回全国クラブ選手権大会、日本ハンドボールリーグの開催といった所です。今後においても、日本ハンドボールリーグの開催は、本県に取りましても大変意義深いものととらえており、計画的に開催して行きたいと考えております。

秋田県出身の全日本選手としては、幻のオリンピック代表となってしまった、斉藤将一郎、斉藤幸司、続いては内藤浩樹、斉藤慎太郎、長沢純平らがおり、女子では太田美紀子、牧野涼子、高橋恭子、菊地春美、横山祐美子、武藤夕起子、市川千恵、小松晃子らの名があげられる。平成5年度の県内登録チームは、高校14、一般11、大学4、高専1、中学が5チームの予定となっている。極端な過疎化が進む秋田県においては、チームの新設、指導者の確保が極めて困難な状況にあり、少数精鋭の考えで進まざるを得ない状況でもある。しかしながら、故由利弘先生のご尽力で中学の指導者が相当数おり、かつ今後もある程度は期待できそうな状態である。全国的には、小学生のハンドボールに熱を入れようとしているさなか、本県ではやっとのことで、本年より中学におけるハンドボールの大会が正式に認められるに至った次第であります。

しかしながら、いよいよ底辺の拡大が図られるものと関係者一同、大いに期待している所でもあります。

秋田県では、能代工業高校を抱えている能代市がバスケットボールの街を宣言しておりますが、それに続けと言わんばかりに湯沢市においては、ハンドボール競技に深い理解と絶大なる協力を頂いており、湯沢市総合体育館もこの4月に完成し、秋田県ハンドボールの本拠地として利用し始めた所です。

秋田県のハンドボールを考えると、課題の山で、何から手をつけたらよいのか皆目見当がつきませんが、松田光雄県協会会長のもと人造りを念頭において、可能性の高い中学へのますますの普及を図り、少数精鋭主義で高校生の競技力の向上をめざして行きたいと考えております。

日本協会はじめ各都道府県及び関係各位のご指導、ご協力をお願い申し上げます。

栃木県ハンドボール協会

栃木県のハンドボール競技は世相が混乱していた昭和21年の12月、細井操（現協会副会長）によって紹介され、23年4月、栃木県ハンドボール協会として出発いたしました。平成5年には協会創立45年になり、会長、理事長とも五代目になります。

この間、ブロック大会や国民体育大会の開催、日本リーグの大会運営等のほか、国際親善として日韓親善定期戦をも開催し、県民のハンドボールに対する理解を深めるとともに、ご来県を頂いた役員監督選手の方々をはじめ、数多くの皆様に御指導とご鞭撻を頂き、協会の発展と競技力の向上に努めて参りました。

また、「輝いて見せてください青春の汗　IN栃木」のスローガンのもとに開催される平成5年度全国高校総体ハンドボール競技は、栃木市の総合運動公園を会場地とし、現在皆様をお迎えすべく鋭意準備を進めているところです。

現在の登録チーム数は一般7、大学4、高校26、中学25で、協会設立時よりは増加しておりますが、ここ10年来変動はありません。全国的に見ても、登録チームの少ない県ではないかと思います。

全国大会等の成績を振り返ってみますと、インターハイでは、高校男子で足利高校が優勝1回、準優勝1回。高校女子では栃木女子高校が優勝2回、準優勝2回に輝いております。一般男子については、栃の葉クラブが全国教職員大会で5度の優勝。一般女子では栃木教員女子チームが3度の優勝を成し遂げています。国民体育大会では、日立栃木が2回、足利高校、栃木女子高校、栃木選抜少年男子がそれぞれ優勝し、全国制覇を成し遂げています。

更にまた、日立栃木は全日本総合選手権に第3位、そして優勝、実業団選手権優勝、日本リーグで準優勝するなど、順調な成果をあげています。

指導陣は、高校関係では高橋隆夫理事長のもと、山下宏、高橋誠、川崎修、中山富夫、住森憲治、大出治男、岸裕行、そして紅一点の猿山美代子等々、メンバーに恵まれています。

特に印象に残ることは、第35回栃の葉国体のハンドボール部門で男女総合1位・女子総合1位となり、天皇杯・皇后杯獲得に大きな貢献を果たし、県民の期待に応えたことと、平成4年3月、男女高校生選抜選手を主体とした40名の選手団を韓国に派遣し親善試合を行なったことです。

ここで、諸事業についてみますと、普及広報に最良の小学生の大会については、過去スポーツ少年団の加入チームが多く、かなりの盛況ぶりでしたが、現在地域的に偏る傾向にあり、チーム数の伸び悩みがあります。中・高校生については、中体連・高体連とも他県に比較して生徒数の少ない本県では、各競技団体ともより多くの部員数を確保するのに苦労しているところです。特に、ハンドボール競技においては、過去地元大学にハンドボール部が存在しなかった関係上、指導者が絶対不足である上に、地域的に偏りがあるので底辺の拡大、また、普及啓発に大きな問題を抱えています。

高体連関係については、強化指定運動部の制度が設けられ、強化策が講じられていますが、中体連は地区別育成強化と競技別育成強化があるのみなので、強化指定運動部の設置を早急にしなければと思います。底辺の拡大策としては、各学校のOB・OG等によるクラブの結成や、事業所等への働きかけも今後の普及方策として重要なことと考えています。

また、年間における強化計画は作成されておりますが、数年先を見通した選手の発掘、育成強化方針、実施計画等の育成強化策を作成し、競技力の飛躍的発展を図る必要があると思っています。

まだまだ協会のなすべき課題は山積していますので、運営に一層努力を重ねていきたいと思いますので、皆様方の御支援、御協力を心からお願い申し上げます。

（文責細井）

茨城県ハンドボール協会



開きはじめたばらのつぼみを象徴化し、新しい時代を先導する茨城県の「先進性」「創造性」「躍動」「発展」を表現した。（平成3年11月13日制定）

冒頭に新しい県章を紹介しましたが、本県のハンドボール競技も、今まさしく同様の発展途上であります。昭和22年11月3日に協会が設立されてから46年目になり、平成9年度には50周年事業を迎えることになります。この度の協会だよりの原稿依頼をお受けした機会に、本県の軌跡を振り返り、今後を見定めたいと思います。

現在国内の競技人口はおよそ10万人といわれますが、戦後の発展とともに普及してきたハンドボールは、本県では昭和33年に、一般8チーム、高校17チーム。また昭和42年には大学2チーム、一般男子8、女子3、教員1、高校男子20、女子16、中学男子12、女子8の合計70チームと成長発展した。さらに昭和53年には、一般チームの増加により県一般リーグが発足され、一般が30、高校が58チームに増加した。平成4年度では一般男子23、女子5、大学男女各2、高校男子41、女子38、中学男子34、女子29、小学男女各2チームの合計１７８チームとなった。

こうした着実な歩みは根っからハンドボールを愛し献身的に発展に寄与された先輩諸氏の力であったことに感謝申し上げ、今後はさらに、良き指導者と良い選手が育つ環境作りに努めてまいりたいと思います。

〈これまでの本県の主な成績〉

全国小学生大会
女子　4位　守谷クラブ

全国中学大会　女子　3位
結城・玉造・水海道・伊奈東中

ジュニアオリンピック
男子　3位　茨城選抜

全国高校選手権
男子　3位　麻生高校
女子　優勝　水海道二高

全国高校選抜大会
女子準優勝　水海道二高

全日本大学選手権
男子　優勝　筑波大学
女子　優勝　筑波大学

全日本教職員大会
男子　優勝　筑城教員
女子　3位　筑城教員

日本ハンドボールリーグ
女子　優勝　日本ビクター

全日本実業団選手権
女子　優勝　日本ビクター

国民体育大会
高校男子　4位　麻生高校
高校女子　優勝　水海道二高
教員男子　準優勝　コンドルズ
一般女子　優勝　日本ビクター
成年女子　優勝　日本ビクター

全日本総合選手権大会
女子　優勝　水海道二高
〃　〃　日本ビクター

全日本自衛隊選手構
優勝　勝田自衛隊

最後にハンドボールファンの皆さんと共に、本県もさらなる普及に努めてまいりたいと考えます。

（分責・理事長　立原定宗）

強化委員会報告

平成5年度合同強化委員会を、5月17日に開催しましたのでご報告します。

メインテーマは機関誌（No.330）の再任のご挨拶ですでに発表ずみの「アジア大会の成功」で、それぞれの立場でどんな考えかた、打ち手を講じれば「大会の成功」、つまりメダルを獲得出来るのかを論じあいました。

結論は次の3点に要約出来ると思います。

①国内大会とのスケジュール調整
②財源の確保
③戦力のアップと各国の戦力分析

［対策とご協力依頼］

①従来からの最重要テーマでしたが、オリンピックや世界選手権大会のアジアの予選に加え、アジア大会、アジア選手権大会の定着、さらに'92に始まった極東大会（2回目からは本年5月に上海で行われ、次の開催が北朝鮮で予定されている東アジアスポーツ大会に包含されるよう、日本協会として中国、韓国のハンドボール協会や、JOCに要望中の大会）など国際スケジュールが超過密で、国内の主要大会と重なるケースも少なくない現状では、ナショナルチーム、プレーヤーそして所属チームのそれぞれに与える負担が大きい。またプレーヤーの健康管理、コンディション面も医科学の立場からも指摘を受けるところであり、現在日本リーグをはじめ、国体のブロック予選では、そのつどブロックの皆さんにご相談を申しあげたりで、関係方面にご迷惑をかける事が多く、本当に抜本的対策、調整が急務です。

②財源につきましては、バブル崩壊後の未曽有とも言える構造的不況の中、日本協会の緊縮につぐ緊縮の予算の中でも、強化は何をおいても欠かせないとのご理解のもとに、現場の要望に出来るかぎりの協力態勢をいただく事には、ナショナルおよびジュニアのスタッフも感謝をしています。

委員会としても現場の希望する合宿、遠征等の見直し、削減を指示依頼しますが、意欲に水を差す事だけは避けなくてはなりません。

3月のスウェーデンの世界選手権大会を視察した際に、大会のメインスポンサーの社名入りのユニホームを参加の全プレーヤーが着用してゲーム、テレビ、新聞のメディアを通してPR。それに併い収入を得る、もうそんな時代ですし、切り口、考え方に、実現の可能性を含め、検討する必要性が論じられました。

③戦力のアップと各国の戦力分析。

男女ともに今夏のアジア選手権大会にベストメンバーで臨み、アジア大会に備える。

男子（第7回）'93 9/24～10/5 バーレーン・マナマ市
女子（第4回）'93 8/18～8/25 中国・汕頭市

［問題点］

男子は日本リーグ前記1～2週と重なる（リーグ、スケジュール担当と調整中）。

女子は国体ブロック予選に2チームが重なる。

同様に女子ジュニア世界選手権に参加の直前合宿が、国体ブロック予選と重なる。

大会参加の際、VTRを含め、戦力分析要員の帯同を希望する。

※　※　※

以上の他にナショナルの母体とも言える学連との連携等、重要テーマについては近日小委員会をスタートさせ、将来へのビジョンを明確にしたいと思います。

強化委員長　井　薫

日本協会だより

神奈川県協会・若崎会長、叙勲の栄に浴す

神奈川県ハンドボール協会会長（元日本協会理事）若崎重富氏は、去る4月25日に発表された平成5年春の叙勲で、永年にわたるスポーツ振興の功績に対し、勲5等双光旭日章を授与された。

■5月度常務理事会

5月22日（土）　於、日本協会事務室
出席　中沢専務理事　他6名

1．各委員長より提出された委員会名簿を承認（名簿別紙のとおり）
2．委員会報告
(1) 指導委員会
ア、世界選手権等のビデオテープの購入希望が出ているがVHS用の数量的な問題、注文方法などIHFと調整、希望に応えられるようにする。
イ、国体の屋外仮設競技場を国体終了後もハンドボール専用コートとして使用可能な恒久施設とするよう開催県に働きかけたい…理事会で検討する。
ウ、大会の競技用具に非検定品が使用されているケースがある。事前確認の義務付け、公共施設の既存の非検定用具の取扱い等プロジェクトチームで検討する。
(2) 機関紙編集委員会
ア、今後の機関紙の在り方を検討するため読者対象にアンケート調査を行う。
イ、国際交流（チームレベル迄）の記事を充実させるため日本協会に届け出る様にしてほしい…方法検討
(3) 日本リーグ委員会
ア、女子チームは第19回大会より1部を8チームとし、プレーオフを実施する。
イ、第18回日本リーグの記者発表を5月25日に行う、その席上、93年度ナショナルチームメンバーの発表も併せて行う。
(4) 国際委員会
第14回女子アジア選手権大会開催日程変更8.12～18→8.16～26.
国内行事との関連から問題はあるが今後の事も考え参加することでチーム編成を考える。一方的かつ急な日程変更についてはAHFに対しその経緯を質すこととした。
(5) 企画委員会
93年全日本総合の広告は愛知県協会と日本協会が協力して対処する。
(6) 会計委員会
平成4年度決算中間報告

各地の大会結果

東北

青森県高校春季選手権

（日時不詳／会場不詳）

〈男子〉

▼1回戦
青森 30－14 三本木農
三本木 39－7 柏木農
野辺地 22－15 今別
青森商 33－8 五所川原
青森南 28－3 七戸
五所工 25－5 野辺工
鰺ケ沢 17－14 野横浜
青山田 20－7 十和工

▼2回戦
青森 21－11 三本木
青森商 21－17 野辺地
青森南 30－11 五所工
青山田 28－16 鰺ケ沢

▼準決勝
青森商 21－17 青森
青森南 17－15 青山田

▼決勝
青森商 20 〔6－8, 14－6〕 14 青森南

〈女子〉

▼1回戦
青森中央 35－0 青森東
三本木 14－9 六ケ所
青森商 24－13 今別
青森西 18－5 野辺地

▼準決勝
青森中央 23－0 三本木
青森商 15－14 青森西

▼決勝
青森中央 36 〔17－4, 19－4〕 8 青森商

第16回東北クラブ選手権 青森県予選

（4月11日／七戸町立体育館）

〈男子〉

▼1回戦
青商クラブ 16－9 野辺地クA
野辺地クB 21－19 七戸ユニオン

▼決勝
青商クラブ 29 〔13－6, 16－10〕 16 野辺地クラブB

〈女子〉

▼決勝リーグ
青森中央ク 22－13 野辺地ク
青森中央ク 26－17 MKC
MKC 16－14 野辺地ク

＊男女とも上位2チームが東北大会へ進出

関東

群馬県高校総体

（5月5日～16日／富岡高校他）

〈男子〉

▼1回戦
高工 15－12 下仁田

▼2回戦
藤岡 19－18 高工
高崎東 22－9 太田商
前橋 14－7 玉村
桐生工 12－6 桐生高

▼3回戦
高崎東 18－15 藤岡
前橋 29－13 桐生工

▼4回戦
前橋 16－12 高崎東

▼準決勝
富岡 26－17 前橋商
富岡実業 19－17 吉井

▼3位決定戦
吉井 24－18 前橋商

▼決勝
富岡 19 〔8－7, 11－7〕 14 富岡実業

〈女子〉

▼1回戦
太田商 27－5 前橋商
高崎東 14－4 富岡実業
下仁田 9－3 高崎市女

▼2回戦
高崎女 12－11 太田商
高崎東 14－12 下仁田

▼3回戦
高崎女 15－14 高崎東

▼準決勝
群女短附 35－16 桐生女
吉井 20－15 桐生西

▼3位決定戦
桐生西 27－8 桐生女

▼決勝
群女短附 25 〔13－5, 12－8〕 13 吉井

関東高校埼玉県二次予選

（4月24日～5月8日／三郷市総合体育館他）

〈男子〉

▼1回戦
浦和学院 27－6 伊奈学園
春日部工 25－16 草加
志木 20－12 春日部共栄
大井 19－17 越谷南
川口北 30－14 春日部
浦和西 29－19 庄和
川口工 27－20 三郷工技
農大三高 31－16 所沢緑ケ岡
浦和南 26－13 浦和市立
城西川越 17－12 越谷西
吹上 19－14 小松原
川口青陵 21－12 埼玉第一
大宮南 26－10 春日部東
埼玉栄 20－16 西武台
川口東 28－12 桶川
浦和実業 30－11 上尾東

▼2回戦
浦和学院 32－11 春日部工
大井 15－13 志木
川口北 14－14 浦和西 （4PTC3）
川口工業 18－17 農大三高
浦和南 25－7 城西川越
川口青陵 24－12 吹上
大宮南 14－10 埼玉栄
浦和実業 19－10 川口東

▼準決勝リーグA組
浦和学院 26－11 大井
浦和学院 24－11 川口北
浦和学院 29－10 川口工業
川口北 18－11 川口工業
川口北 26－12 大井
川口工業 18－11 大井

▼準決勝リーグB組
浦和実業 22－11 大宮南
浦和実業 29－11 川口青陵
浦和実業 20－9 浦和南
浦和南 19－16 川口青陵
浦和南 15－14 大宮南
川口青陵 18－16 大宮南

▼代表決定トーナメント
川口北 26－11 川口青陵
川口工業 17－16 浦和南

▼代表決定戦
川口北 22－13 川口工業

▼決勝戦
浦和実業 22 〔10－9, 12－8〕 17 浦和学院

＊浦和実業、浦和学院、川口北が関東大会へ

〈女子〉

▼1回戦
埼玉栄 45－7 大宮南
羽生第一 16－15 春日部女子
浦和学院 18－9 草加
川口青陵 29－6 庄和
西武台 34－3 上尾南
朝霞 21－16 越谷南
春日部工 21－9 所沢北
川口北 24－4 農大三高
浦和実業 38－4 川口女子
大宮開成 33－6 幸手商業

本庄第一　13－9　春日部東
八潮　25－12　上尾東
熊谷女子　13－11　小松原女
浦和南　26－9　筑波坂戸
浦和西　26－7　秋草学園
伊奈学園　31－3　浦和市立

▼2回戦
埼玉栄　42－2　羽生第一
川口青陵　17－8　浦和学院
西武台　28－10　朝霞
川口北　23－12　春日部工
浦和実業　44－7　大宮開成
八潮　37－2　本庄第一
熊谷女子　15－14　浦和南
伊奈学園　20－13　浦和西

▼準決勝リーグa組
西武台　21－14　埼玉栄
西武台　20－12　川口青陵
川口北　17－10　西武台
埼玉栄　14－14　川口青陵
埼玉栄　22－16　川口北
川口青陵　16－15　川口北

▼準決勝リーグb組
浦和実業　22－6　熊谷女子
浦和実業　22－15　八潮
浦和実業　15－11　伊奈学園
八潮　17－9　伊奈学園
八潮　18－14　熊谷女子
伊奈学園　12－8　熊谷女子

▼代表決定トーナメント
埼玉栄　18－12　伊奈学園
川口青陵　16－12　八潮

▼代表決定戦
埼玉栄　16－15　川口青陵

▼決勝戦
浦和実業　17（12－6、5－5）11　西武台

＊浦和実業、西武台、埼玉栄が関東大会へ

東京都高校新人大会

（日時・会場不詳）

〈男子〉

▼1回戦
日野　15－11　上野
科学技術学園　21－13　青山学院
武蔵野北　15－14　篠崎
中大附属　23－7　早大学院
安田学園　34－1　北多摩
駒大　19－17　田無
開成　33－12　三鷹
東大和南　21－12　両国
府中西　19－13　城北学園
東海大菅生　28－18　専大附
八王子東　28－6　杉並

▼2回戦
拓大一　27－3　青山
国分寺　25－10　日野
永山　32－15　科学技術学園
南野　25－12　城西
筑波大駒場　19－16　武蔵野北
神代　18－17　中大附属
安田学園　18－15　新宿
農大一　21－13　西
東京　17－4　江戸川
立川　25－12　駒大
片倉　18－11　開成
国立　24－13　東大和南
日体荏原　34－14　府中西
府中　21－9　東海大菅生
八王子東　19－11　日大二
明星　30－8　修徳

▼3回戦
拓大一　12－6　国分寺
永山　27－8　南野
神代　21－11　筑波大駒場
安田学園　14－12　農大一
東京　18－6　立川
片倉　16－15　国立
日体荏原　18－12　府中
明星　26－9　八王子東

▼4回戦
拓大一　20－5　永山
神代　16－14　安田学園
東京　18－8　片倉
明星　24－17　日体荏原

▼準決勝
拓大一　23－12　神代
明星　18－10　東京

▼3位決定戦
東京　17－9　神代

▼決勝
明星　17（9－7、8－7）14　拓大一

〈女子〉

▼1回戦
砂川　8－7　本所

▼2回戦
菊華　14－4　国立
蒲田　7－3　共立第二
日体桜華　18－3　日大二
藤村女子　30－6　杉並
保谷　10－4　砂川
文華女子　6－4　調布北
青山学院　12－6　国分寺
久留米西　26－5　桜水
石神井　9－6　府中
白梅　19－5　豊多摩
富士　8－4　田無
神代　13－7　富士森

▼3回戦
文大杉並　12－4　菊華
日体桜華　17－2　蒲田
藤村女子　20－3　保谷
江東商　17－1　文華女子
青山学院　13－4　八雲学園
久留米西　12－4　石神井
白梅　10－9　富士
佼成女子　19－5　神代

▼4回戦
文大杉並　21－7　日体桜華
江東商　15－14　藤村女子
久留米西　13－10　青山学院
佼成女子　16－9　白梅

▼準決勝
文大杉並　17－13　江東商
佼成女子　30－7　久留米西

▼3位決定戦
江東商　19－10　久留米西

▼決勝
文大杉並　16（6－4、10－6）10　佼成女子

近畿

京都府高校選手権

（4月18日～5月2日／田辺中央体育館他）

〈男子〉

▼1回戦
洛星　22－3　八幡
田辺　22－12　洛西
堀川　20－15　北稜
嵯峨野　18－9　乙訓

▼2回戦
北嵯峨　29－6　洛星
東稜　14－10　城陽
西乙訓　27－4　伏見工
洛水　12－0　同志社
京都西　23－8　日吉丘
平安　28－2　洛東
東山　36－5　久御山
大谷　18－9　田辺
東宇治　21－17　堀川
西宇治　41－8　洛陽工
塔南　31－6　木津
桂　27－7　南八幡
向陽　31－8　桃山
京都学園　13－12　京都両洋
山城　30－10　城南
洛北　27－13　嵯峨野

▼3回戦
北嵯峨　26－5　東稜
洛水　25－18　西乙訓
京都西　27－19　平安
大谷　20－12　東山
東宇治　30－12　西宇治
桂　33－13　塔南
向陽　23－12　京都学園
洛北　21－18　山城

▼4回戦
北嵯峨　34－12　洛水
京都西　15－14　大谷
東宇治　23－22　桂
洛北　25－18　向陽

▼準決勝
北嵯峨　25－16　京都西
洛北　18－13　東宇治

▼3位決定戦
東宇治 16－14 京都西
▼決勝
洛北 19（5－9、9－5、3－0、2－1）15 北嵯峨

〈女子〉
▼1回戦
京都学園 18－11 西山
東宇治 32－4 久御山
東稜 18－4 塔南
桃山 14－8 光華
北嵯峨 19－6 桂
乙訓 10－0 山城
精華女子 25－5 北稜
京都女子 13－6 西宇治
洛水 21－9 日吉丘
▼2回戦
洛北 29－7 京都学園
東宇治 18－6 東稜
桃山 34－4 西乙訓
府立商業 20－12 北嵯峨
城南 21－4 乙訓
精華女子 10－9 南八幡
京都女子 20－2 明徳商業
向陽 20－6 洛水
▼3回戦
洛北 24－6 東宇治
桃山 16－12 府立商業
城南 21－14 精華女子
向陽 13－10 京都女子
▼準決勝
洛北 25－3 桃山
向陽 22－8 城南
▼3位決定戦
桃山 12－10 城南
▼決勝
洛北 13（8－7、5－5）12 向陽

京都高校総合体育大会

（5月9日～16日／光華高校）

〈男子〉
■上級Aゾーン
▼1回戦
大谷 21－11 城陽
嵯峨野 22－11 北陵
田辺 18－8 同志社
桂 34－10 伏見工
▼準決勝
大谷 15－14 嵯峨野
桂 23－14 田辺
▼決勝
桂 15（6－8、9－4）12 大谷

■上級Bゾーン
▼1回戦
東宇治 14－10 東稜
向陽 21－12 平安
山城 19－9 日吉丘
両洋 29－5 久御山
▼準決勝
東宇治 17－12 向陽
両洋 17－16 山城
▼決勝
東宇治 18（12－7、6－4）11 両洋

■上級Cゾーン
▼1回戦
洛北 19－9 堀川
京学園 26－5 洛陽工
東山 20－12 洛水
木津 10－8 洛東
▼準決勝
洛北 25－5 京学園
東山 30－7 木津
▼決勝
洛北 26（16－4、10－3）7 東山

■上級Dゾーン
▼1回戦
北嵯峨 31－10 塔南
西乙訓 22－5 洛星
京都西 24－7 城南
乙訓 10－8 西宇治
▼準決勝
北嵯峨 24－6 西乙訓
京都西 24－12 乙訓
▼決勝
北嵯峨 18（11－6、7－6）12 京都西

■下級Aゾーン
▼1回戦
向陽 15－7 京学園
山城 10－9 桃山
桂 9－4 西宇治
嵯峨野 12－6 北稜
▼2回戦
京都西 15－9 向陽
城南 11－9 山城
洛西 9－3 桂
嵯峨野 18－13 東山
▼準決勝
京都西 14－3 城南
洛西 7－6 嵯峨野
▼決勝
京都西 14－5 洛西

■下級Bゾーン
▼1回戦
大谷 10－8 洛水
東宇治 14－4 西乙訓
洛星 11－10 南八幡
北嵯峨 14－5 堀川
▼2回戦
大谷 13－4 乙訓
両洋 11－10 東宇治
洛星 13－6 八幡
北嵯峨 17－5 田辺
▼準決勝
両洋 12－11 大谷
北嵯峨 15－8 洛星
▼決勝
北嵯峨 15－13 両洋

〈女子〉
■上級Aゾーン
▼1回戦
北嵯峨 21－7 塔南
光華 17－6 久御山
▼準決勝
府立商 14－7 北嵯峨
光華 8－5 乙訓
▼決勝
府立商 17（8－5、9－7）12 光華

■上級Bゾーン
▼1回戦
洛水 21－7 桂
京都女 20－7 東稜
▼準決勝
洛水 14－10 城南
京都女 15－7 日吉丘
▼決勝
京都女 9（4－6、5－3）9 洛水
＊京都女の抽選勝ち

■上級Cゾーン
▼1回戦
桃山 28－6 西乙訓
京学園 5－3 山城
▼準決勝
向陽 22－18 桃山
東宇治 17－2 京学園
▼決勝
向陽 20（11－7、9－5）12 東宇治

■上級Dゾーン
▼1回戦
精華 15－0 西宇治
西山 10－4 北稜
▼準決勝
洛北 33－6 精華
南八幡 19－3 西山
▼決勝
洛北 18（12－3、6－4）7 南八幡

■下級Aゾーン
▼1回戦
東宇治 7－2 東稜
城南 7－3 京都女
山城 6－4 光華
▼準決勝
東宇治 15－8 洛水
城南 11－1 山城
▼決勝
城南 3－2 東宇治

■下級Bゾーン
▼1回戦
洛北 29－4 桃山

向陽 11－3 北嵯峨
精華 5－4 北稜
▼準決勝
洛北 16－3 明徳商
向陽 13－3 精華
▼決勝
洛北 11－2 向陽

和歌山県春季選手権

（4月25日〜5月2日／岩手町民体育館他）

〈男子〉

■一般男子の部

▼1回戦
那賀クラブ 34－14 白馬クラブ
和歌山クラブ 18－13 和医大
県商クラブ 29－21 海南クラブ
住友金属 49－3 和高専
▼準決勝
那賀クラブ 34－12 和歌山クラブ
住友金属 22－15 県商クラブ
▼決勝
那賀クラブ 37（21－12、16－13）25 住友金属

■高校の部

▼1回戦
県和商高 18－13 笠田高
▼2回戦
御坊商工高 13－13（2PTC1）和歌山工高
新宮高 18－15 耐久高
近大附和高 27－10 海南高
新宮商高 8－8（2PTC1）桐蔭高
市和商高 20－8 紀北農芸高
箕島高 17－13 貴志川高
那賀高 38－8 和歌山東高
粉河高 23－14 県和商高
▼3回戦
近大附和高 24－7 新宮高
粉河高 19－4 御坊商工高
市和商高 17－9 新宮商高
那賀高 22－13 箕島高
▼準決勝
市和商高 19－18 那賀高
粉河高 16－9 近大附和高
▼決勝
粉河高 23（9－5、14－7）12 市和商高

■中学校の部

▼1回戦
有功中 16－5 那賀中
湯浅中 15－8 西和中
紀伊中 19－7 打田中
▼2回戦
金屋中 28－15 有功中
貴志川中 22－6 近大附和中
岩出中 21－10 湯浅中
紀伊中 20－12 岩出第二中
▼準決勝
金屋中 16－9 貴志川中
岩出中 20－7 紀伊中
▼決勝
金屋中 18（9－4、9－7）11 岩出中

〈女子〉

■高校の部

▼1回戦
桐蔭高 10－8 御坊商工高
新宮高 13－9 新宮商高
笠田高 19－2 粉河高
箕島高 15－8 海南高
▼2回戦
那賀高 22－4 桐蔭高
新宮高 11－10 県和商高
笠田高 20－17 貴志川高
初芝橋本高 33－2 箕島高
▼準決勝
那賀高 20－2 新宮高
初芝橋本高 18－5 笠田高
▼決勝
初芝橋本高 26（14－12、12－7）19 那賀高

■中学校の部

▼1回戦
桃山中 21－8 貴志川中
打田中 15－6 粉河中
岩出第二中 14－8 那賀中
▼準決勝
岩出中 20－2 桃山中
岩出第二中 12－10 打田中
▼決勝
岩出中 16（8－3、8－4）7 岩出第二中

中国

第44回中国高校選手権

（5月7日〜9日／倉敷体育館他）

〈男子〉

▼1回戦
下松工(山) 23－5 境(鳥)
倉敷青陵(岡) 22－15 松江南(鳥)
東岡山工(岡) 21－10 江津(島)
呉港(広) 15－13 境港工(鳥)
総社(岡) 27－8 飯南(島)
岩陽(山) 21－15 呉工(広)
岩国(山) 13－12 倉敷工(岡)
修道(広) 35－5 米子東(鳥)
▼2回戦
下松工 22－8 倉敷青陵
呉港 17－6 東岡山工
総社 19－12 岩陽
修道 20－14 岩国
▼準決勝
下松工 24－9 呉港
修道 21－17 総社
▼決勝
下松工 24（13－3、11－7）10 修道

〈女子〉

▼1回戦
岩国商(山) 37－6 米子西(鳥)
西大寺(岡) 20－8 広島一女商(広)
総社(岡) 14－3 松江市女(島)
高水(山) 10－5 境(鳥)
玉野光南(岡) 27－7 福山(広)
江津(島) 15－12 米子東(鳥)
徳山商(山) 29－6 浜田商(島)
山陽女(広) 30－9 真備(岡)
▼2回戦
岩国商 23－12 西大寺
高水 17－13 総社
玉野光南 26－4 江津
山陽女 25－18 徳山商
▼準決勝
岩国商 21－9 高水
山陽女 19－10 玉野光南
▼決勝
岩国商 18（12－5、6－5）10 山陽女

山口県学生春季リーグ戦

（5月2〜3日／山口大学）

■リーグ戦
山口大本部 32－12 徳山工高専
徳山大学 35－19 宇部工高専
山口大本部 21－6 山口大医学
徳山工高専 30－25 宇部工高専
徳山大学 22－21 山口大医学
山口大医学 30－5 宇部工高専
徳山大学 35－23 徳山工高専
山口大本部 30－5 宇部工高専
山口大医学 27－22 徳山工高専
山口大本部 28－16 徳山大学

〔順位〕①山口大学本部②徳山大学③山口大学医学部④徳山工業高専⑤宇部工業高専

四国

愛媛県高校選抜二次予選

（1月9・10日／今治市営体育館）

〈男子〉

▼1回戦
松北 13－11 松西
新田 20－19 今西
▼準決勝
新工 19－14 松北
松南 18－16 新田
▼決勝
新工 19（8－4、11－4）8 松南

〈女子〉

▼1回戦
今東 21－19 新東
新商 12－10 松西
▼準決勝

松北 12－10 今東
今北 26－7 新商
▼決勝
今北 16（5－7, 11－7）14 松北

九州

九州学生リーグ春季大会

（4月30日～5月4日／福岡市民体育館他）

〈男子〉

▼一部リーグ
（順位）①福岡大学②東和大学③沖縄国際大学④福岡教育大学⑤西南学院大学⑥九州産業大学

▼二部リーグ
（順位）①熊本大学②九州大学③鹿児島大学④熊本商科大学⑤第一工業大学⑥久留米工業大学

▼三部リーグ
（順位）①長崎総合科学大学②第一経済大学③大分大学④九州共立大学⑤宮崎大学

▼四部リーグ
（順位）①長崎大学②福岡工業大学③熊本工業大学④鹿児島経済大学⑤九州工業大学

〈女子〉

▼リーグ戦
（順位）①福岡教育大学②福岡大学③九州女子大学④沖縄国際大学⑤琉球大学⑥東海福岡短期大学⑦熊本短期大学

＊最優秀選手 〈男子〉清水博之（福岡大学）〈女子〉甲斐万起子（福岡教育大学）

福岡県高校競技大会

（5月3～4日／大牟田市民体育館他）

〈男子〉

▼1回戦
久工大附 30－9 筑紫丘
新宮 23－10 小倉工
明善 11－10 香椎
小倉西 11－8 博多工
福岡 14－13 九州産業
若松 10－7 西南
早良 29－6 日新館
泰星 17－12 宗像

▼2回戦
久工大附 24－10 新宮
明善 10－9 小倉西
福岡 18－11 若松
泰星 16－8 早良

▼準決勝
久工大附 31－4 明善
泰星 18－9 福岡

▼3位決定戦
福岡 31－14 明善

▼決勝
久工大附 25（11－7, 14－6）13 泰星

〈女子〉

▼1回戦
玄洋 23－9 三井
福岡 16－4 三池
春日 13－11 福岡南女
香住丘 14－4 若松

▼2回戦
筑紫女 30－5 玄洋
九州女子 8－7 福岡
早良 19－17 春日
宗像 12－3 香住丘

▼準決勝
筑紫丘 26－1 宗像
早良 13－12 九州女子

▼3位決定戦
九州女子 21－9 宗像

▼決勝
筑紫女 27（13－2, 14－5）7 早良

熊本県教職員大会

（12月5・6日／熊本市総合体育館他）

■高校大学の部

〈Aパート〉

▼準々決勝
熊本 18－10 専大玉名
人吉 14－13 天草農
球磨商 16－9 九州女学院
マリスト 12－9 済々黌

▼準決勝
熊本 13－10 人吉
球磨商 14－8 マリスト

▼決勝
熊本 17（6－3, 11－5）8 球磨商

〈Bパート〉

▼準々決勝
熊本工 8－7 松島商
水俣工 16－9 熊本市立
熊本西 18－16 東稜
阿蘇 12－0 第二

▼準決勝
熊本工 11－11 水俣工（2PTC1）
阿蘇 13－5 熊本西

▼決勝
阿蘇 15（8－4, 7－4）8 熊本工

■小中学校・連合の部

▼準々決勝
熊本市教員 15－5 山鹿教員
宇城A 14－10 水俣市教員
五和教員 16－12 菊水連合
苓北教員 18－9 宇城B

▼準決勝
熊本市教員 12－10 宇城A
五和教員 16－15 苓北教員

▼決勝
熊本市教員 20（9－5, 11－6）11 五和教員

■同・単一校の部

▼準々決勝
本渡中 14－8 小川中
熊本養護 11－8 浜町小
下・城南中 9－7 西山町
大矢野中 12－0 宇土東小

▼準決勝
大矢野中 13－11 下・城南中
熊本養護 14－12 本渡中

▼決勝
大矢野中 12（9－4, 3－4）8 熊本養護

●機関紙委員会スタッフ
植村繁／恩田健一／木野実／本多正樹／菅野恵理／臼井鉄久／門松真一

（財）日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第三三二号
昭和四十年六月十七日 第三種郵便物認可
平成五年三月二十六日 印刷
平成五年七月一日 発行
東京都渋谷区神南一―一―一
電話 代表 三四八一―二三六一
振替 東京 六―五八三四八番
編集兼発行人 中澤重夫
定価三百五拾円
（年間購読料三千三百円）

財団法人 日本ハンドボール協会編

ハンドボール

NO.333 Aug. 1993



通巻333号 平成五年八月一日発行 毎月1回1日発行
昭和40年6月7日第三種郵便物認可

日本リーグ通算得点新記録を達成した西山選手

JAPAN HANDBALL ASSOCIATION

第15回世界選手権大会誘致運動開始

去る、6月26日に開催された平成5年度第1回評議員会に於て1997年の世界選手権大会（男子）誘致運動に着手することが全員の賛成を得て決定した。

本大会は世界のトップ24ケ国が集い2年に一度開催されるハンドボール界の最高のイベントである。

尚、今回は開催を強く希望する熊本県を対象として誘致運動に入るが、この大会がヨーロッパを離れるのは初めてであり、もし実現すれば日本ハンドボール協会創立以来、最大のイベントとなる。

8月度 行事予定

大会

7/31～8/2	第6回全国小学生大会	京都府田辺町中央体育館
8/2～8/7	第44回全日本高校選手権	栃木市総合公園
8/9～8/11	第20回全国高専選手権	境港市民体育館
8/9～8/13	第36回全日本教職員選手権	豊田市体育館他
8/20～8/22	第22回全国中学校大会	生駒市総合公園体育館

ナショナルチーム

男子A

7/23～8/13	海外特別強化合宿	ドイツ他

女子A

8/5～8/16	アジア選手権直前合宿	北國銀行
6/16～8/27	アジア選手権大会	中国汕頭

女子ジュニア

8/23～8/25	世界ジュニア選手権直前合宿	東京女子体育大学
8/26～9/1	〃　〃	チェコ

CONTENT

第15回世界選手権大会誘致運動開始……1
8月度行事予定……1
男女の海外派遣選手団決定……2
（男子ナショナル・ヨーロッパ遠征＆第9回女子ジュニア世界選手権大会）
インターハイの組み合わせ決定……3
第36回全日本教職員選手権大会組み合わせ……4
■西山清選手新記録達成
おめでとう612点、西山さん……臼井　鉄久……5
新記録おめでとう……泉　喜久男……6
おめでとう西山選手……蒲生　晴明……6
日本リーグ通算得点新記録を達成して……西山　清……7

ＩＨＦチーフレフェリーシンポジウム報告……大塚　文雄＆後藤　登……8
ＩＨＦコーチシンポジウム報告……大西武三・蒲生晴明・田口　隆……9
'93ルール改正に関する疑問点の回答……審判委員会……12
1993年度女子ナショナルチーム選手紹介……13
強い全日本を目指して……緒方　嗣雄……17
夫婦で作ったふたつのチーム……志々場修二・博子……18
ナショナル(B)チームだより……松井　幸嗣……19
平成5年度女子ジュニア第1回強化合宿報告……高野　亮……19
国際情報……20
県協会だより（沖縄県）（山梨県）（奈良県）……21
各地の大会結果……23
日本協会だより……24

写真提供：(株)スポーツイベント

男女の海外派遣選手団決定

男子ナショナルのヨーロッパ遠征派遣選手団と第9回女子ジュニア世界選手権大会参加メンバーが決まった。

男子ナショナルは、すでに7月23日に日本を発ち、フィンランド、ドイツ、デンマークの各国を転戦中で、8月13日に帰国予定となっている。女子ジュニア世界選手権大会は9月にブルガリアで開催されるが、どんな戦績を残してくれるか期待が集まる。

男子ナショナル ヨーロッパ遠征派遣選手団

	氏名	生年月日	所属
監督	蒲生　晴明	1954. 4. 5	大同特殊鋼
コーチ	関　健三	1955. 1.24	三陽商会
ドクター	河野　卓也	1956. 4.17	横浜港湾病院

選手	氏名	生年月日	身長	体重	所属
G・K	橋本　行弘	1965. 9.17	185cm	80kg	本田技研工業
	林　康一	1967. 3. 3	181	75	大同特殊鋼
	河野　裕光	1969. 6.16	186	84	湧永製薬
C・P	魚住　和彦	1966.10.24	188	78	大崎電気工業
	梅基　幸一	1967. 2.25	182	72	本田技研工業
	末岡　政広	1967. 9. 1	176	74	大同特殊鋼
	田中　茂	1967. 9. 2	182	76	三陽商会
	高木　浩司	1967. 9. 7	182	69	中村荷役運輸
	渡辺　浩	1967.10.20	182	72	三陽商会
	三輪　澄高	1968. 1.31	188	80	トヨタ自動車
	林　昌英	1968. 7.31	181	65	日新製鋼
	田中　雅彦	1968. 9.21	185	80	湧永製薬
	源内　利之	1968.10.12	182	73	日新製鋼
	平松　茂雄	1968.10.27	181	67	本田技研工業
	中山　剛	1969. 7. 4	191	75	湧永製薬
	佐藤壮一郎	1969. 8. 7	178	73	大同特殊鋼
	高田　浩志	1970. 2.10	180	76	湧永製薬
	岩本　真典	1970. 9.28	197	80	三陽商会
	永山　強	1971. 9. 9	178	67	順天堂大学

第9回女子ジュニア世界選手権大会参加メンバー

監督	高野　亮	
コーチ	田中　俊行	
選手	友貞　由美	大阪体育大学
	中井　美世	武庫川女子大学
	荒川　裕子	大和銀行
	上出　恵美子	北國銀行
	松本　恵美	日立栃木
	稲次　彩	筑波大学
	山﨑　智美	北國銀行
	森川　直子	ブラザー
	芦ケ谷登美子	シャトレーゼ
	伊佐野　美保	日立栃木
	神津　奈美	東京女子体育大学
	山川　由加	ブラザー
	小松　真理子	北國銀行
	田中　美音子	大和銀行
	田中　美代子	北國銀行
	野村　奈美	大和銀行

インターハイの組み合わせ決定

8月2日から栃木市で開催される第44回高校選手権大会の組み合わせが、別掲の通り決まった。男女とも8月2日から5日までは栃木市総合運動公園多目的広場で熱い戦いが繰り広げられ、6日と7日の準決勝・決勝は栃木市総合体育館で覇を競う。

男子の部

番号	学校	番号	学校
1	熊本市立商業（熊本）	25	興南（沖縄）
2	県立長浜北（滋賀）	26	北海道釧路江南（北海道）
3	県立境港工業（鳥取）	27	県立四日市工業（三重）
4	県立香川中央（香川）	28	県立北村山（山形）
5	浦和学院（埼玉）	29	県立小山南（栃木）
6	県立新潟江南（新潟）	30	県立明石清水（兵庫）
7	県立清水東（静岡）	31	久留米工大附（福岡）
8	大分電波（大分）	32	修道（広島）
9	金沢市立工業（石川）	33	県立氷見（富山）
10	県仙台南（宮城）	34	市立岐阜商業（岐阜）
11	県立守谷（茨城）	35	県立青森商業（青森）
12	県立粉河（和歌山）	36	県立富岡（群馬）
13	岡崎城西（愛知）	37	土佐（高知）
14	県立江津（島根）	38	県立下松工業（山口）
15	拓大一高（東京）	39	県立都城工業（宮崎）
16	県立新居浜工業（愛媛）	40	桐光学園（神奈川）
17	県立鹿児島工業（鹿児島）	41	北陸（福井）
18	県立盛岡第一（岩手）	42	府立北嵯峨（京都）
19	県立富雄（奈良）	43	駿台甲府（山梨）
20	國學院栃木（栃木）	44	県立総社（岡山）
21	県立屋代（長野）	45	県立池田（徳島）
22	県立神崎（佐賀）	46	県立羽後（秋田）
23	学法石川（福島）	47	長崎日大（長崎）
24	二松学舎沼南（千葉）	48	桃山学院（大阪）

Bracket (1–24): B7, A1, A13, C1, D6, B17, F6, B1, B14, A3, B9, D8, C3, A15, B3, F8, B18, B11, A5, B16, C5, D10; 22, 26, 24

Bracket (25–48): F10, B5, D14, B6, A12, A20, B9, F4, C13, D4, C9, A10, B4, D12, F2, E7, A18, C7, D2, C11, B2, A8

女子の部

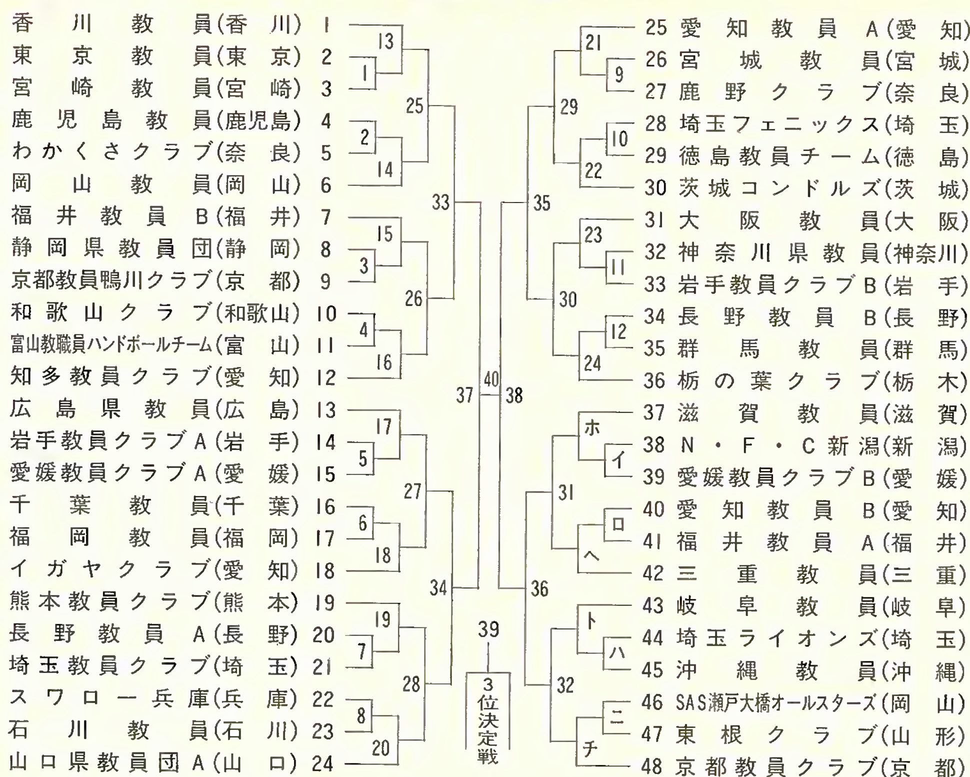
番号	学校	番号	学校
1	名古屋短大附属（愛知）	25	県立盛岡第二（岩手）
2	四天王寺（大阪）	26	夙川学院（兵庫）
3	筑紫女学園（福岡）	27	県立高知南（高知）
4	明倫（神奈川）	28	県立水海道第二（茨城）
5	県立郡山女子（福島）	29	熊本女子商業（熊本）
6	県立高松商業（香川）	30	山陽女子（広島）
7	県立北村山（山形）	31	暁（三重）
8	群馬女子短大附（群馬）	32	県立神埼農業（佐賀）
9	県立福井商業（福井）	33	浦和実業学園（埼玉）
10	県立岩国商業（山口）	34	県立氷見（富山）
11	県立那賀（和歌山）	35	県立青森西（青森）
12	県立大分東（大分）	36	県立栃木女子（栃木）
13	聖和女子学院（長崎）	37	県立コザ（沖縄）
14	県立小山西（栃木）	38	東邦大附属東邦（千葉）
15	北海道釧路湖陵（北海道）	39	県屋代（長野）
16	県立今治北（愛媛）	40	県立城北（徳島）
17	県立浜田商業（島根）	41	県立養老女子商（岐阜）
18	県立八日市（滋賀）	42	府立洛北（京都）
19	清水市立商業（静岡）	43	県立添上（奈良）
20	県立玉野光南（岡山）	44	県立大島（鹿児島）
21	佼成学園女子（東京）	45	県立大曲農業（秋田）
22	聖和学園（宮城）	46	県立山梨（山梨）
23	県立新潟江南（新潟）	47	県立境（鳥取）
24	県立本庄（宮崎）	48	県立小松商業（石川）

Bracket (1–24): A7, B1, B13, D1, C6, A17, E6, F1, A14, B3, A9, C8, D3, B15, F3, E8, A19, A11, B5, A16, D5, C10; 21, 25, 23

Bracket (25–48): E10, F5, C14, A6, B12, B20, F9, E4, D13, C4, D9, B10, A4, C12, E2, F7, B18, D7, C2, D11, A2, B8

第36回全日本教職員選手権大会組み合わせ

8月8日から13日まで愛知県下で行われる第36回全日本教職員選手権大会の組み合わせが決まった。この大会は、第49回国民体育大会リハーサル大会として、豊田市体育館、知立市福祉体育館などで熱戦が展開される。





西山清選手新記録達成

おめでとう612点、西山さん

広報委員　臼井　鉄久

定評のあるコントロールが微妙にずれている。ペナルティーシュート2本を含めて、放ったシュート3本が全てバーの上側に直撃する不運が続き、ゴールを割らない。

試合後の記者会見などでも「意識はしていなかった」というが、ペナルティーは明らかに肩に力が入り過ぎているのが分かる。「皆に迷惑をかけるかもしれないが、今日は絶対（新記録を）決めたいんだ」とミーティングでこう発言。まさに予告ゴール。「とにかく早く決めないと、尾をひいてしまう」。結局（記録を）達成するまでは自分にパスが集中し、チーム本来の動きがとれなくなってしまうからだ。

このところリリーフ役として後半に登場するケースが多かったが、この試合は1度ペナルティーに登場した後、前半17分過ぎに再登場したが、特に西山さんにパスを集中させる、といった雰囲気はあまり感じられなかった。（西山さんなら）すぐに決めてくれるという周囲の信頼があるのだろうか。

3本目のペナルティー、待望の得点が決まり大いに沸く。前2本に比べると肩の力が抜けているようだ。

その後、左45度からミドルを放つが、キーパーに右手ではじかれる。結局前半は1点で終了。

そして後半の5分過ぎ、待ち望んでいた得意の左45度からの引っ張りのカットインが決まり、リーグタイ記録。これですっかりタイミングをつかんだのか、1分後に中央からのミドルがキーパーの足下を抜くと、蒲生現全日本男子監督の持つリーグ通算得点記録611点を更新した。この瞬間を待ち望んでいた超満員のスタンドの大歓声に包まれながら、応援団からの垂れ幕が開き、花束贈呈のセレモニーで試合は一時中断される。

「得意のシュートで決めたかった」と試合後語ってくれたように、タイ記録はカットイン、新記録はミドルシュートで、しかもコースは引っ張り。点取り屋としてのこだわりからの達成で、大満足だった。

ロサンゼルス・オリンピック前、「蒲生二世じゃなく、西山一世ですよ」と言った言葉を思い出したが、今まさに名実ともにその時がやって来た。「（蒲生さんとは）体格もプレースタイルも異なっているから、比較されるのがおかしい」と。

しかし、この言葉の裏には、あくまでも自分は西山なんだというポリシーが潜んでいる。

記録は破られるためにある。これも一理あるが、プロ野球の王貞治元巨人軍選手が達成したホームラン記録のように、不世出の大記録を作ってほしい。西山さんにとってだけではなく、今後のハンドボール界のためにも、よりハイレベルで、どんなに迫っても追い切れないものを。今期からは監督との二足のワラジを履き、チーム中心に物事を考えなくてはならないが、まだベンチで采配をふるうだけの西山さんを見たい人はいないはずだ。

これからも好きな言葉である「意欲」あふれたプレーで記録を積み重ねていってほしい。

世界学生選手権の得点王という「勲章」をぶら下げて日新製鋼入りした日本リーグのデビュー戦で、いきなり終始マンツーをつけた大同特殊鋼も、当時からニューヒーローの出現を感じ取っていたに違いない。

それにしても、これほどのスター選手でありながら、おごり高ぶったところが全くみられないのも西山さんの魅力のひとつではないかと思う。今回も盛んに会社や周りのメンバーに恵まれた、と常に相手を思いやることも忘れない。もしもハンドボールをやっていなかったら、普通の会社員、ただのオジサンですよと語ってくれた西山さん。時代劇やお笑い、スポーツ番組を見るのが好きだという。そんな素朴な姿に好感を持つ人も多いはずだ。

西山さんにサインを貰ったファンが飛び上がって喜んでいたのを目にし、自分までうれしくなってしまった。

「とにかくニシに通算記録をとってほしいんだ」

以前こんな話をスタッフの方から聞いたことがある。胴上げもテレビカメラに囲まれると「落とすなよ」とチームメイトに言いながら再び行ってくれるサービス、何となく日新製鋼というチームワークの良さが感じられた。

新記録を達成した今、日本リーグ初制覇が夢という。とにかくハンドボールが全てで他のことは考えられないようだ。

本当におめでとうございます。そして夢をありがとうございました。

1993年6月20日、福岡での対三陽商会戦の出来事だった。

西山清得点全記録

● 第7回

対戦	得点
対大同	3
湧永	6
大崎	7
大イ	8
本田	4
本田	7
大崎	7
湧永	10
大イ	9
大同	11
合計	72（通算72）

● 第8回

対戦	得点
対湧永	4
大崎	8
三陽	12
本田	9
大同	1
三陽	10
湧永	8
大同	8
本田	7
大崎	14
合計	81（通算153）

● 第9回

対戦	得点
対三陽	3
湧永	5
大同	4
大崎	6
本田・	9
合計	27（通算180）

● 第10回

対戦	得点
対大崎	6
湧永	5
三陽	10
本田	9
大崎	8
湧永	8
三陽	8
本田	6
合計	60（通算240）

● 第11回

対戦	得点
対本田	6
三陽	8
湧永	6
三景	4
大崎	6
本田	6
大崎	4
三景	6
三陽	6
湧永	5
合計	57（通算297）

● 第12回

対戦	得点
対湧永	4
大崎	7
トヨタ	2
大同	7
本田	6
合計	26（通算323）

● 第13回

対戦	得点
対大崎	7
三陽・	9

新記録おめでとう

日新製鋼ハンドボール部総監督　泉　喜久男

「西山君、新記録おめでとう。」ようやく達成できましたね。

日新製鋼のチームメイトの一人として、本当に嬉しく思っています。

思い出せば、昭和57年の入社当時は、その群を抜くシュートスピードに大変驚いた事を覚えています。また、新人としてリーグ緒戦の対大同戦に於いてゲームスタートからマンツーマンをされた事は、その力量の素晴らしさを物語っていると思います。

以来今日迄、11年余りに亘り日新チームのエースとして、またある時期は、全日本のエースとして、相手チームの激しいマークをかいくぐって得点を伸ばし、大きな故障もなく、よく頑張ってきたと思います。

人はとかく年齢イコール体力と考えがちですが、西山君の運動能力にはその言葉は当てはまりません。34歳という年齢は西山君にとっては、何の参考にもならない事は、付き合う程につくづく感じています。それどころか、年が経つ程にそのテクニックに幅が出て来ているのではないかと思っている程です。

私は、この新記録は西山君にとっては、一つの通過点にすぎないと思っています。又、周囲の方々もそう願っている筈です。是非共、次は700点を達成して貰いたいと思いますし、君ならば出来ると信じています。

勿論、得点するということはチームメイトの力の結集であることは常々君が言っている通りであります。従って、この記録は個人はもとより、チームとしても大変名誉なことだと思います。

スポーツマンとしては、プレーしている時が一番である事を、そのプレーをやめて初めて実感するものだと思います。しかし、今の西山君は、それは早過ぎると思います。新記録達成で、一つの節目を越えた今、前人未踏の道を進む西山君に贈る言葉として、ここまでチームの牽引役を果たしてくれた事に感謝すると共に、これからもプレーイングマネージャーとして大変だと思いますが、年齢的にはマネージャーとして、体力的にはプレーヤーとして更に大きくなって欲しいと言うことです。

最後に、これまで君を育てて戴いた恩師の方々、諸先輩の方々の多大なご助力に対し、チームの一員として厚くお礼申し上げます。また今後共西山監督率いる日新製鋼チームにご支援賜ります様、よろしくお願い致します。

おめでとう西山選手

蒲生　晴明

日本全国のハンドボールファン、そして各マスコミが待ちに待った日本リーグ通算得点新記録「612得点」。本当におめでとうございます。

私も同じ経験をしているわけですが、個人の得点記録はチームの記録であると思います。その意味で、日新製鋼チームのメンバーの汗と努力の結果であって、それを支えて下さった会社の方々の支援・応援の賜物です。どんなに個人で

本田 7 湧永 5
三陽 7 大崎 9
湧永 5 本田 6
大同 4 大同 11
合計70（通算393）

●第14回 対本田
本田 7 大崎 6
三陽 6 本田 10
湧永 3 大同 3
大崎 7 湧永 8
大同 4 三陽 6
合計60（通算453）

●第15回 対本田
本田 5 本田 4
三陽 5 トヨタ 0
湧永 2 大同 2
大同 2 湧永 5
トヨタ 1 三陽 5
中村 6 中村 9
大崎 3 大崎 2
合計51（通算504）

●第16回 対大崎
大崎 1 三陽 3
本田 3 中村 2
中村2 三景―（未登録）
三景 2 大崎 2
湧永 2 湧永 3
三陽 5 大同 3
大同 3 本田 1
合計32（通算536）

●第17回 対中村
中村 1 大同 7
湧永 4 大崎 1
大同 7 トヨタ 11
トヨタ 4 本田 4
本田 3 中村 8
大崎 7 三陽 6
三陽 6 湧永 2
合計71（通算607）

●第18回 対本田
本田 0
大崎 2
三陽 3
合計5（通算612）
6月20日現在

※注　大イは大阪イーグルス

頑張っても、よいパスやブロック、そしてよい環境がなければ、成し遂げられないと思います。会社あげけのこの金字塔に拍手を送ります。今後も監督として、選手として、日本全国のハンドボールファンに、すばらしいパフォーマンスを長く見せて下さい。

日本リーグ通算得点 新記録を達成して

私の拘りと今後目指すもの

第18回日本ハンドボールリーグを前に、私自身様々な不安があった。まず一つは、監督としてチームを纏めること。二つ目は、選手としての意識の持続と〝どうしても成し遂げたい目標〟。そして、三つ目は監督と選手の両立である。私自身起用な人間ではないので、この三つの立場は先が見えないものばかりだった。こんな私自身の精神状態を察してか、企業として、現状ではこれしかないスタッフの人選をして頂いた。その一つが湯中ヘッドコーチの異例とも思う抜擢、そして二つ目が日野マネジャーの残留である。

昨年までチームのマネジャーとしてその手腕を発揮していた湯中ヘッドコーチと、引き続きマネジャーをやることになった日野マネジャーである。この2名は、選手への人望も厚く、又何よりもその明るいキャラクターがいい。選手だけでなく、私自身の気が滅入ったときの良き相談相手であり、兄貴分として大変心強い存在である。こうした配慮の中、私自身の日本リーグでの目標は決まった。まず、日本リーグ通算得点新記録達成、それを目指す。チームのためにも。

こうして第18回日本リーグを迎えた。

新記録を意識したころから、私自身の思いの中に記録達成の時の得点は、自分の一番得意なシュートで決めたいと思っていた。現実、現記録前のシュート(610得点目)がペナルティーシュートで引っ張り上、現記録に並ぶシュート(611得点目)がカットインから引っ張り下、そして新記録達成のシュート(612得点目)がミドルシュートの引っ張り下、私自身の最も得意としているプレーがこの3得点に集約表現することができた。もちろん、この他にも私自身の好きなプレーやシュートはあるが、中学校2年の12月24日からハンドボールを始め、高校・大学・そして実業団まで約20年間やってきたプレーの核的存在が引っ張りのシュートと言っても過言ではない。とにかく〝引っ張りしかない西山〟と呼ばれるくらいだった。



今、思ってみると私自身この引っ張りのシュートに対して非常に拘っていたような気がする。悪く言えば多少意地っ張りの所が有ったのかもしれない。でも、この拘りが今までハンドボールができ、又今回の新記録達成を成し遂げた最大の要因のような気がする。例えば、同じ引っ張りへのシュートを打つ時でも、放つタイミングやフォーム(肘・肩の使い方等)、そして、スピード・パワーアップのためのトレーニングを私なりに考え実施できたと思う。

又、今までもそうであるが、スランプになった時や、ケガのためしばらく休んだ時の場合でも、まず自分の得意なプレーの立て直しから入るようにしている。誰でもそうだと思うが、自分のキーになっているプレーがあると思う。それが崩れるということは、自分のプレーが崩れる可能性が高いと私は思う。

つまり、自分自身、レベルアップを図りたいのなら自分のプレーの核、一番好きで得意なプレーを見いだし認識することが大切だと思う。

少々しつこいようですが、この大記録を達成することができたのも、こうした拘りがあったからこそと思っている。又、忘れてならないことが、私自身を取り巻く人を含めた環境のバックアップなしでは、この記録は成し遂げることができなかったと思っている。

私は今後、監督と選手という二足のわらじを暫くの間履くことになるが、私自身の目標が達成できた今、チームを優先した取り組みをしたいと思っている。もちろん、選手の育成をも考えながら。そして一人でも多くハンドボールをやってきて良かったと思い、その後自分自身のハンドボール人生を楽しく語れるような育成を、できる限りしていきたいと思っている。

日新製鋼ハンドボール部監督　西山　清

IHFチーフレフェリーシンポジウム報告

国際審判員はサバイバルの時代

審判委員会　大塚文雄＆後藤　登

1993年IHFチーフレフェリーシンポジウムは、ヨーロッパ・アルプス、ドロミテ渓谷にあるイタリアの古都ブリックセンでIHF／PRCメンバー、IHF／レクチャラー、世界43ケ国のチーフレフェリー88名が参加して行われた。

IHFからこの通知が日本に届き、イタリアのどの辺で行われるのか地図を見たが、どの地図にもブリックセンという町は載っていない。少々焦って学校で地理の先生に調べていただいたら、なんとボルツァーノ（Ｂｏｌｚａｎｏ）という町であることが判明し、この山の中の町までどのようにしていったらよいか、あれこれ迷った。

ボルツァーノは、新緑の中、石畳が敷きつめられた小さな町で、自然と人々が豊かに調和した静かで美しい町で、夏のリゾート地、冬のスキー場で、これといった産業のない観光の町と見受けた。

会議の詳細については、後にこの誌面を通して報告したいと思いますが、今回は概略を簡単に報告致します。

▼5月24日

・シンポジウム冒頭基調講演
　IHF／PRC委員長　エリック・エリアス

・レフェリー観察評価表
　IHF／PRC　オイビンド・ボルスタット

・バルセロナ・オリンピック審判員の評価
　IHF／PRC　テオ・キルフォン

・A男子世界選手権大会審判員の評価
　IHF／PRC　ヤーニス・グリンベルガス

▼5月25日

・国際審判員のシステム
　IHF／PRC委員長　エリック・エリアス

・
　IHF／PRC　テオ・キルフォン

・良いレフェリーの条件
　IHF／レクチャラー　ワルター・コカ

・レフェリーの心理
　IHF／レクチャラー　ワルター・コカ

▼5月26日

・アフリカに於けるエリートトレフェリーの教育
　IHF／PRC　フレディナント・ゾリノ

・ハンドボール新興国の統合
　IHF／PRC　クリスタル・アール

▼5月27日

・1993年ニュールール
　IHF／PRC委員長　エリック・エリアス
　IHF／PRC　ウイリー・ハックル

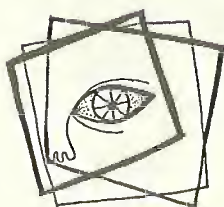
・レフェリーに対する監督側の意見
　IHF／CCM　ディトリッヒ・スペート

特にこの中で特記することは新しい審判員の観察評価表により、バルセロナ・オリンピックとA男子世界選手権大会のレフェリーの評価がきちんとなされ、報告されている点である。日本も審判技術向上のため、各ペアの観察評価の確立をはからなければならない。

また、国際審判員のシステムでは、各大陸（コンチネンタル）のレフェリー制度ができ、コンチネンタルの優秀なレフェリーが、IHF・Aレフェリーとして登録される。そしてIHF・Aレフェリーの中から更に優秀なレフェリーが30ペア選抜され、IHFエリート・レフェリーとなる。しかしながらAレフェリーとして数年、IHFの公式戦を吹かなければ、そのレフェリーは再びコンチネンタル・レフェリーへ格下げとなる。

日本にとっては、この制度は非常に厳しい状況となり、今後国際審判員はサバイバルの時代を迎えそうである。

また、ニュー・ルールについては、シンポジウムの最終日にいとも簡単に報告され終わってしまったのが、意外であった。IHFは、ルールブックも出来ているし、その通り実施しなさい、という感じで、特に何かの質問もコメントも無かった。解釈としては日本で実施しているのとまったく同じであった。ただ、GKのユニフォームは背番号のところに穴が開いているのはOKである、とのことで、日本では検討を要するが、当分は現行のまま実施していただきたい。



IHF コーチシンポジウム報告

大西　武三（指導委員会委員長）
蒲生　晴明（ナショナル監督）
田口　　隆（ナショナルコーチ）

ＩＨＦのＣＣＭ（Commission of Coaching and Methods）が世界の指導者を集めて2年に一回開催する行事である。ＣＣＭの委員長は長い間ルーマニアのクンスト氏が務めてきたが、昨年6月の総会で改選となり、エジプトのムスタファ氏がヨーロッパ以外から初めて選出され、今回のシンポジウムはその初仕事であった。

日本協会から上記３名が派遣され研修してきました。田口氏は折しもケルン体育大学に日本体育協会から指導者留学しており、何かと心強くまた便宜をはかって頂いた。

研修はもとより各国の指導者と交流できたことは大きな収穫でした。内容の詳細は2ヶ月後にＩＨＦより送付されてきますので、指導委員会で翻訳し、国内でのシンポジウム、機関誌あるいは講習会にて伝達して行きたく思います。


ＣＣＭ委員長ムスタファ氏

期日　5月30日～6月3日

場所　ドイツ・ジュセルドルフ

参加者

ＩＨＦ参加者		
ヨーロッパ	21ヶ国	61名
アジア	6ヶ国	14名
アフリカ	3ヶ国	7名
パンアメリカ	1ヶ国	2名
アフリカ連盟	1ヶ国	1名
ドイツ連盟参加者		49名
計	31ヶ国	134名

ハンドボールの方向性

このシンポジウムの意義は世界の指導者にコーチングに必要な各種の情報を提供して指導者の資質を高めることは勿論であるが、如何にすれば、ハンドボールはもっと魅力的なスポーツになるかをＩＨＦのリーダーと参加者である世界の指導者で模索していく所にある。

ＩＨＦの加盟国数は増加しているが、どうすればもっと魅力に満ちたハンドボールになるか、ＩＨＦは非常な関心事を持っている。これは今回のシンポジウムのメインテーマである「2000年のハンドボール」に直接通じることであり、シンポジウム最後のパネルディスカッションでもとり上げられた話題である。ハンドボールの発展普及はハンドボールそのものが人々にとってどれくらい魅力的で素晴らしいものであるかによっている。

日本が例えば世界のトップクラスに躍りでても、他のスポーツを凌いで普及発展するかといえば疑問である。やはりハンドボールそのものがやってみたいと思わせ、また見てみたいと思わせる魅力を備えていなければならない。ＩＨＦのＣＣＭは、よりハイテンポでハイスピードな、あるいは、より戦術的なハンドボールを目指そうとしていることが、今後に向けてのルール改正の提案などから推察することが出来る。


コーチシンポジウムに日本を代表して出席した三氏。右から大西、蒲生、田口の各氏

例えば（括弧の数字は賛成のパーセント）

◎選手交代はディフェンス局面のみ（17）

◎上記に加えて一人のみの交代（23）

◎ペナルティでのＧＫの交代は出来ない（5）

◎ペナルティは則された選手が行う（5）
◎フリースローラインの外側からのゴールインは2点（35）
◎最後の5分間は実質時間で（72）
◎各ハーフ毎に1回のタイムアウト（75）
◎45秒ルール（42）
◎スローオフはGKによってキーパーラインから行う。（58）
◎追放や失格の後、さらに罰則を加える。（45）
◎コートプレイヤーを5人にする（9）
◎監督はベンチの後ろで自由に動いてよいように改正する（12）


シンポジウムパネラー

各項目にシンポジウムの参加者にアンケートが取られたが、IHFのCCM委員では、如何にすればハンドボールがより魅力的になるかを考えるのに対し、参加してくる現場のコーチは如何にすれば勝てるかを考えている。その考えのギャップがパーセンテージに現れていて興味深かった。

最後の日に旧ソ連の監督であったイトウチェンコ氏が急に現れ、バルセロナオリンピックでのバスケットのドリームチームによる人気の急騰に比べ、ハンドボールは最近青少年の間に人気が減少していることをグラフで示し、こうすればハンドボールはその人気を取り返せると自己のスピード化に向けたルール改正案を滔々とシンポジウムで話すというハプニング的な場面もあった。


エリアス氏とイトウチェンコ氏

尚、余談になるがイトウチェンコ氏はPRCの委員長のエリアス氏が今回のルール改正を説明した後、質問があるといって席を立ち1982年の世界選手権のビデオを映し、これに対して意見を求めるといったテーマとは検討違いのことを行い、エリアス氏を困らせ、またたしなめられる場面があった。世界のトップにいる指導者の自己アピールの強さを見る思いであった。


キュン・キョン・チョン氏（中央）

世界の指導者はプロである

日本のハンドボールでは蒲生氏がプロ第1号の指導者として誕生したが、世界では、もう当たり前の世界であることを実感した。ハンドボールの指導そのものを仕事としてやって行かなければもうやって行けない時代である。

シンポジウムにはCCMのメンバーやオリンピックや世界選手権大会で活躍した指導者が招かれ講演するが、それらの人はナショナルチームやクラブのプロコーチであるか体育大学の教授である。講演や実技指導の内容は新しくて画期的と思われるようなものはないが、さすがに単なる経験論としてではなく、一つの理論として組み立てられている。また練習法もよく工夫され、その人の独自性が感じられる。ハンドボールを職業としている誇りと専門家としての能力が伺える。プロである所以である。

日本ではスポーツの体制が異なる為に、うかつなことは言えないが、今後のハンドボールの競技力向上や普及のためにはプロ的な指導者が輩出する機構が必要である。これだけ高度化した世の中にあって、指導者が仕事とハンドボールの両立では世界のトップレベルにはついて行けないという危惧の念

を抱いた。

目を引いた韓国式トレーニング

講演者の韓国女子ナショナルチーム監督鄭亨均（キュン・キョン・チョン）氏であるが、アジアからIHFのシンポジウムで講演・実技指導した人は今回初めてである。講演ではオリンピックに至る強化計画やディフェンス戦術、実技では韓国式フットワークが披露された。

ヨーロッパの技術指導は主に戦術的なトレーニングが中心である（体力的なトレーニングや基礎技術的なトレーニングに関しては今までもほとんどプログラムに組まれていない）。

1：1の突破のステップに関して1歩1歩の理論と実技、そしてそれに至るまでにフットワークトレーニングが行われたが、デモンストレーターとなったドイツジュニアの選手は要求されるスピードと身のこなしに、とてもついて行けるものではなかった。

「アジアにはアジアのトレーニング法がある」と一部ヨーロッパの指導者の中には批判的な声もあるようであるが、実技講習の中では一番注目を引いたものであった。

それにしても鄭氏が世界の指導者と対等にコミュニケーションを取れる姿を見て、それは世界一になった自信からだけでなく、3年間アラブ首長国連邦でハンドボールの指導をした国際経験が十分に生かされているためと感じた。

折しも同席した蒲生氏は鄭氏と同年令であり、選手として国を代表して戦ってきた間柄である。蒲生氏の今後の活躍によって、世界の指導者の前で講演できる日が来ないものかと思った次第である。

プログラム

メインテーマ
ハンドボール2000　発展の可能性と展望

▼6月30日

〈午前〉 講義

◎2000年におけるトレーニング
講師　ロルフ・ブラック（ドイツのコーチ・シュツットガルト大学）

◎1992年オリンピックに向けてのスペインの準備
講師　ジャビール・カルシア・クエスタ（前スペイン監督）

〈午後〉 実技

◎6：0ディフェンスに対するオフェンス戦術
講師　ジャビール・カルシア・クエスタ

◎ゴールキーパーのトレーニング
講師　ミチャル・バルダ（前チェコのGK・チェコのアシスタントコーチ）

▼31日

〈午前〉 講義

◎肩の傷害
講師　ギス・ランゲボールト（オランダIHF医事委員会委員長）

◎1992オリンピックの韓国女子のトレーニング
講師　ヒュン・キュン・チュン（韓国女子ナショナルチーム監督）

◎スウェーデンでの世界選手権大会（1993）におけるスイスの準備
講師　アルノ・エーレット（スイス監督）

〈午後〉 実技

◎ステップワークのトレーニング
講師　ヒュン・キュン・チュン

◎ディフェンスの個人戦術
講師　アルノ・エーレット

◎新しいルールを使用してのデモンストレーションゲーム
講師　ギュンター・クライン（ケルン体育大学）

▼6月1日

〈午前〉 講義

◎着想とトレーニング
講師　ベングト・ヨハンセン（スウェーデン監督）

◎サイドプレーヤーの近代的なトレーニング
講師　アラン・ルンド（デンマークIHF・CCMメンバー）

◎ジュニアのトレーニング
講師　レナート・シューベルト（ドイツジュニア監督）
ラジョス・モクサイ（前ハンガリーコーチ）

〈午後〉 実技

◎スウェーデンの6：0ディフェンスのトレーニング
講師　ベングト・ヨハンセン

◎ジュニアの攻撃の個人技術のトレーニング
講師　レナート・シューベルト
ラジョス・モクサイ

▼2日

〈午前〉 講義

◎変化するコーチのイメージ
講師　ハインツ・ズッター（スイスIHF・CCMメンバー）

◎ゴールキーパーの7mスロー防御
講師　ミチャル・バルダ

◎ゴールキーパのプレイの近代的側面
講師　クラエス・ヘルグレン（前スウェーデンGK）

〈午後〉 実技

◎ゴールキーパーの技術トレーニング
講師　クラエス・ヘルグレン

◎ベース・トレーニング
講師　ユルゲン・ハーン（ドイツ・エッセンコーチ）

夜　グループでのディスカッション

▼3日
講義

◎ルールの改正
国際レフェリーのキャリア
講師　エリック・エリアス（IHF・PRC委員長）

◎どうしたらハンドボールはもっと魅力的になるか？

●女子ハンドボールの技術戦術的傾向
講師　フランチゼック・タブロスキー（チェココーチ委員会委員長）

●'93世界選手権の技術戦術的分析
講師　ディートリッヒ・スペート（ドイツ　IHF　CCM委員）

●ハンドボールにおける破壊的な要素
講師　ディートリッヒ・スペート

◎パネルディスカッション
●2000年に向けてのハンドボール―ハンドボールはもっと魅力的にすることが出来るか？―
〔パネラー〕
ジュアン・ロマン・セコ（スペイン　IHF　CCM）
アルノ・エーレット（スイス監督・今年からドイツ監督）
ギュンター・クライン（ケルン体育大学）
エリック・エリアス（スウェーデン　IHF　PRC）
クラウス・シュグァルツ（WDR／ARDスポーツテレビ）
ゲルド・ブチェック（ドイツヘラルド保険会社）

'93ルール改正に関する
疑問点の回答

審判委員会

4月から新しいルールで競技が実施されていますが、いろいろな問題点があると思います。次の疑問点は全国各地から寄せられたものですが、ルール研究委員会から回答致します。

尚、今後競技を実施している中で、いろいろな問題点や疑問点がありましたら㈶日本ハンドボール協会審判委員会宛お送り下さい。

1　競技終了の合図の後にPT・FTを行った場合

(1)改めて終了の合図が必要か
＊終了の合図（ジェスチュアー）は必要である。但し、笛は吹く必要はない。

(2)終了の合図が無い場合、ハーフタイムはどの時点からか
＊合図は必要であり、合図があればその時点からである。但し、合図が無い場合には本来合図が必要と思われる時点からが適当である。

(3)記録用紙への時間の記入は何時か
＊30：00である。

2　競技(前半)終了の合図があった時点でPT・FTのボールの行方が定まっていない場合

(1)すべてやり直しか
＊すべてやり直しではない。

(2)明らかにゴールの可能性はないが、ボールがコート内かコート外の空間にある場合は、レフェリーの判断か
＊レフェリーの判断である。

(3)GKにボールが触れ、ゴールインが不可能な方向に進んでいる場合は、レフェリーの判断か
＊その通りである。

例　終了のブザーが鳴る
・スローする前（ボールが手から離れる前）…すべてやり直し
・ボールがゴールに向かっている場合…すべてやり直し
・ボールが明らかにゴールに向かっていない場合（味方へのパス、明らかなスローミス）…終了
・バー、ポスト、GKに接触した後
ゴールに入る可能性がある…やり直しをさせる。
明らかにゴールに入る可能性がない…終了

3　競技(前半)終了間際のPT・FTはレフェリータイムをとったほうが良いか、それともそれまでの流れに沿ってとらないほうが良いか
＊レフェリータイムはとらないほうが良い。

4　GKが攻撃中または交替中で不在となり、相手側攻撃の時にCPがGKの代役をやった時どうするか
＊エリア内防御として扱う。したがってシュートを阻止すればPT。ラインクロスの反則である。

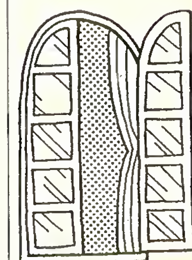
5　GKがCPとして出場するとき、トレパンをはいたまま出場して良いか
＊CPは全員同一のユニフォームでなければならない。但し、GKが攻撃に参加するときはそのままで良い。

6　ノータイム寸前でFTを投げたものが、DFにあたり競技終了のブザーが鳴った場合、もう一度やり直しか
＊ゴールに入る可能性がある場合にはやり直し

7　ペナルティースロー・コンテストについて

(1)GKは毎回交替して良いか
＊交替して良い

(2)GKとして出場した後、次にシューターとして出場して良いか
＊差支えない。



1993年度 女子ナショナルチーム 選手紹介

①ニックネーム②生年月日③年令④ナショナルチーム入り年度⑤国際試合数⑥身長⑦体重⑧利き腕⑨所属⑩出身地⑪出身校

（ポスト）
谷本　泉（たにもと・いずみ）



①イズミ②45年6月5日③22才④H2年⑤21⑥162⑦57⑧右⑨北國銀行⑩石川県⑪小松市女

★期待する点＝新キャプテン。誰に気を遣うこともなく、リーダーシップを発揮し、ガッツプレーを期待している。

●本人の抱負＝スピードの中で正確性を磨いて、走るJAPANの一員としてコートの中でプレーする。ディフェンスの穴を走って、相手を困らせる攻めと、他のプレーヤーの動きを読みとってプレーをしていきたい。

（GK）
村山みどり（むらやま・みどり）



①ムラ②44年1月9日③24才④S62年⑤42⑥177⑦69⑧右⑨シャトレーゼ⑩愛知県⑪東京女子大学

★期待する点＝全日本のGKとして申し分ないが、長いナショナルチームの経験を活かし、ベテランとしてチームを大いに引っ張ってほしい。

●本人の抱負＝世界選手権Bグループで北朝鮮と1点差負けしたくやしさをバネに頑張りたい。新しいメンバーも多く加わったので、去年までとは一味違ったナショナルチームになればよいと思う。

（左45度）
貴田　直子（きだ・なおこ）



①サブ②44年10月18日③23才④H4年⑤16⑥173⑦64⑧右⑨日立栃木⑩青森県⑪青森西高校

★期待する点＝全日本チームのエースアタッカーとして、誰にも負けない強い信念をもってプレーしてほしい。

●本人の抱負＝ロングシューターとしての役割を、確実に果たしていきたい。

（サイド）
小俣　訓子（おまた・くにこ）



①クニ②44年11月15日③23才④H4年⑤14⑥157⑦55⑧右⑨シャトレーゼ⑩静岡県⑪静岡城北高校

★期待する点＝サイドシューターのスペシャリストとして、自信をもったプレーを期待している。

●本人の抱負＝周りのみんなから作ってもらったシュートチャンスを確実に得点できる様に、また自分で仕掛けていけるプレーヤーになる。速効マンとしての走りを忘れずに…。

（左右45度）
西　朋子（にし・ともこ）

①ニシ②45年1月19日③23才④H4年⑤6⑥167⑦62⑧右⑨

□指導スタッフ



監督　緒方　嗣雄（大和銀行）



コーチ　伊藤　宏幸（日立製作所）



コーチ　穂積　豊彦（北國銀行）



ジュニア監督　高野　亮（東京女子体育大学）



ジュニア監督　田中　俊行（ブラザー工業㈱）



プラザー工業⑩愛知県⑪武庫川女子大学

★期待する点＝パワフルでトリッキーなミドルシュートを期待している。ＤＦ面と走力を一段とアップするよう努力してほしい。

●本人の抱負＝自分のもっているプレイをすべて出すこと。あと約1年半程がんばります。

松下由紀子（まつした・ゆきこ）
（サイド）



②45年8月27日③22オ④Ｈ4年⑤4⑥161⑦55⑧右⑨北國銀行⑩石川県⑪小松商業高校

★期待する点＝自己アピールを十分に出すこと。自分のプレーを信じて、切れのよいプレーを期待する。

●本人の抱負＝ナショナルらしいプレーを考える前に、まずは自分のもっている力を出せるように、少しでもチームに役立てるように頑張りたいと思います。

西口　貴子（にしぐち・たかこ）
（右45度）



①タク②46年6月28日③21オ④Ｈ4年⑤15⑥173⑦62⑧右⑨大和銀行⑩長崎県⑪夙川学院高校

★期待する点＝ディフェンスの柱として、メンバーから信頼される守りができるように。

●本人の抱負＝ナショナルプレーヤーとしては、まだまだ未熟なため、常に勉強する気持ちを忘れずに頑張りたいと思います。

山尾　陽子（やまお・ようこ）
（左45度）



①マオ②47年3月29日③21オ④Ｈ5年⑤2⑥171⑦62⑧右⑨大和銀行⑩滋賀県⑪彦根商業高校

★期待する点＝パワーアップを心掛け、ロングシュートは自信を持ち、確率を上げること。強い精神力を持つこと。

●本人の抱負＝全日本選手としての経験はまだ浅いですが、合宿に参加するたびに勉強になることがたくさんあります。なぜ自分が全日本の選手に選ばれるのかという気持ちがあり、消極的になる部分がありましたが、選ばれたからにはがむしゃらにし、手本になる人達がたくさんいるので、見て自分の悪いところは少しでも減らして、長所はどんどん伸ばしていけるようにしたいです。

田中　里美（たなか・さとみ）
（サイド）



①ビッケ②48年2月27日③20オ④Ｈ5年⑤2⑥166⑦59⑧右⑨オムロン熊本⑩熊本県⑪熊本女子商業高校

★期待する点＝2つのポジションをこなせるようになること。ねばり強い性格を全面に出して力を発揮してほしい。

●本人の抱負＝ナショナルメンバーに選ばれたからには、日本の代表選手という自覚をもって参加したいと思います。オムロンでやっているポジションとは違いますが、自分が求められているプレーを出せるよう、日頃のトレーニングから真剣に取り組み、自分の持味を早く出し、頑張っていきたいと思います。やるからには、上位を目指したいです。

上出恵美子（かみで・えみこ）
（センター）



①エリー②48年5月17日③20オ④Ｈ5年⑤2⑥168⑦58⑧右⑨北國銀行⑩石川県⑪小松商業高校

★期待する点＝オールラウンドプレーヤーとして、すべての点に努力してほしい。持ち前の明るさでチームを活性化させてほしい。

●本人の抱負＝いろいろな人のプレイを見て、さらに磨きをかけて頑張ります。



荒川　裕子（ポスト）

（あらかわ・ひろこ）

①ひろ②48年4月25日③20才④H5年⑤2⑥172⑦70⑧右⑨大和銀行⑩岡山県⑪宜真高校

★期待する点＝ムードメーカーとしてチームの活性化に務めてほしい。ポストマンとして自分のプレーも大切であるが、他のプレーヤーを助けるプレーを勉強してほしい。

●本人の抱負＝少しでもチャンスがあれば1点でも多く点を決めて、活躍できるようになりたい。チームのムードメーカーとなれるよう、声を出してがんばろうと思う。



松本　恵美（45度）

（まつもと・えみ）

①バン②48年7月6日③19才④H5年⑤2⑥171⑦72⑧右⑨日立栃木⑩栃木県⑪国学院栃木高校

★期待する点＝パワー、スピードをアップしてロングシュートを持ち込んでほしい。一日も早く先輩を追い越す意気込みを持つこと。

●本人の抱負＝もっと自分のプレーに自信をつけ、そしていろんな面でたくさんのことを吸収していきたい。日本だけじゃなくて世界に通用するプレーを自分に身につけて頑張っていきたい。



広瀬喜代香（45度）

（ひろせ・きよか）

①キヨカ②48年10月19日③19才④H5年⑤0⑥164⑦65⑧右⑨大崎電気⑩宮崎県⑪本庄高校

★期待する点＝ガッツを全面に出し、すべてのプレーに意欲を持って取り組んでほしい。

●本人の抱負＝ナショナルの合宿に参加すると、自分のチームと違ったプレーもあるし、自分と同じポジションの人のプレーを見ながら、見本となる人たちがたくさんいます。自分にないものがすぐにわかります。合宿に参加することで、今までとは違う自分になりたいと思います。



伊佐野実保（サイド）

（いさの・みほ）

①ジャン②49年1月6日③19才④H5年⑤0⑥163⑦62⑧右⑨日立栃木⑩栃木県⑪栃木商業高校

★期待する点＝サイドプレーヤーとして人一倍努力して自分のポジションを奪い取ること。

●本人の抱負＝サイドというポジションにこだわらず、スルーやカットインを使ってディフェンスをかき回していきたいです。シュートはもっと中に入ってジャンプをし、余裕をもって打っていけるようにして、確率を高めていきたいと思います。いろいろな人のプレーを見て研究し、どんどん自分のものに出来るよう頑張っていきたいです。



山川　由加（右45度）

（やまかわ・ゆか）

①ユタ②49年5月29日③18才④H5年⑤2⑥167⑦60⑧左⑨ブラザー工業⑩愛知県⑪名古屋短期大学付属高校

★期待する点＝左という自分の特徴を活かすこと。パワーアップを第一に心掛け、ロングシュートに期待している。

●本人の抱負＝世界に通用するプレーをしたい。もっとフットワークなどパワーをつけたい。ケガをしないようにする。もっとキャリアをつんで、安定するプレーをしたい。とにかくいっぱいうまくなりたい。とにかくいっぱい頑張る。



田中美音子（左サイド）

（たなか・みねこ）

①みねこ②50年1月14日③18才④H5年⑤0⑥159⑦56⑧右

⑨大和銀行⑩大阪府⑪四天王寺高校
★期待する点＝サイドプレーヤーとして走力をつけ、シュートテクニックの工夫、スペシャリストを期待する。
●本人の抱負＝尊敬する人たちのプレーを一つでも多く身につけて、どんどんうまくなりたい。そして世界で通用するようなプレーヤーになれるよう自分の最大限に挑戦していきたいと思っています。

（GK）
古澤さとこ（ふるさわ・さとこ）



①さこ②47年3月6日③21才④H5年⑤2⑥170⑦68⑧右⑨北國銀行⑩佐賀県⑪神崎農業高校
★期待する点＝積極的にプレーすることを心掛け、自分流の型を早く作り上げること。
●本人の抱負＝自分はナショナルに入ってまだ日が浅いのですが、走ることにかけては、人以上に遅いので、みなさんに迷惑をかけないように頑張りたいです。あと、ゴールキーパーとしては、上のムラさん、ジンさんを見習って、少しでも近づき、安心してまかされるようになりたいです。

（GK）
川島ゆう子（かわしま・ゆうこ）



①ジン②43年10月21日③24才④H3年⑤18⑥174⑦67⑧右⑨オムロン⑩鹿児島県⑪牧園高校
★期待される点＝躊躇することなく積極的に取り組んでほしい。常にトップを目指すこと。
●本人の抱負＝全日本という一つのチームの中で、各個人個人でいろいろな役割あると思いますが、自分自信の役割、位置付けを把握し、チームのために、日本のために頑張りたい。

（サイド・センター）
比嘉 晴美（ひが・はるみ）



②44年9月12日③23才④S61年⑤47⑥162⑦52⑧左⑨オムロン⑩沖縄県⑪具志川高校
★期待する点＝プレーで活躍はもちろんのこと、全日本チーム最長経験を生かし、リーダーシップを発揮してほしい。
●本人の抱負＝全日本歴7年と一番長いので、この経験を生かし、少しでもチームを引っ張り、力になれるよう頑張りたい。

（フローター）
西村 聖子（にしむら・せいこ）



①せいこ②45年10月14日③22才④H元年⑤15⑥174⑦67⑧右⑨オムロン⑩大阪府⑪武庫川女子大学
★期待する点＝まずDFの中心としてリーダーシップを発揮すること。DFではシュート確率をよくすることに努力してほしい。
●本人の抱負＝国際試合の経験だけは、数多くさせてもらっているので、これからは攻守共にチームの中心選手となれるよう頑張りたい。

（フローター）
日比野雅子（ひびの・まさこ）



①マサ②44年12月3日③23才④H5年⑤2⑥166⑦62⑧左⑨ブラザー工業⑩愛知県⑪東京女子体育大学
★期待する点＝ケガに泣かされ続けたが、やっと克服して復帰。溜った力を爆発させてほしい。特にパワフルな左腕シュートに期待。
●本人の抱負＝今までケガで出来なかった分、周りの人たちを沸かせるようなプレーができるようにバリバリ頑張りたいと思います。

（FP）
大林 まり（おおばやし・まり）



②46年11月2日③22才⑥159⑦50⑪武庫川女子大

強い全日本を目指して

全日本女子監督　緒方　嗣雄

昨年の11月に行なわれた世界B選手権は10位という成績で終った。順位決定戦では、北朝鮮と対戦し、終始リードをしておきながら、最後に逆転され後味の悪い敗戦であった。この一戦に限らず、敗戦の分析は、集中力が欠けた時のボールコントロールミス、大切にプレーをしようとしての消極的なプレーで発するミス、精神的に弱くなった時のミスが多い。これらのミスはスピードに乗ったミスで無い為に、即相手チームに得点を許す事になる。思い切りよく生き生きとプレーする事と、スピードに乗ってプレーできる選手を第一と考え、全日本メンバーを一新する事とした。

フレッシュさを前面に出し、肉体的、精神的に追い込まれた状態でも、逃げる事なく挑戦する選手を第一に考え、メンバーを選出した。新人9名（ジュニア資格者7名）を含む19名の選手選考をして、3月15日より3日間のトレーニング後、遠征合宿に出発した。

チェコ、スロバキア、ドイツ、オランダと22日間で13試合（5勝8敗）。スロバキアでは、大会参加1日3試合のハードスケジュールの試合。チェコでは合宿トレーニングで試合中の問題点の修正を行ったり、チェコナショナルコーチの指導を受け12日間のハードトレーニングであった。再び親善試合の為にドイツ、オランダを廻り遠征を終えた。遠征前は、初めて参加するジュニア選手が多い為に不安材料ばかりであったが、チェコでの合宿トレーニングの中で、ベテランとジュニアのチームワークも良くなり、一人一人力を発揮することによりライバル意識が働き、次第に戦う軍団となる。すべての面でチームワークが向上し、ねらい通りのチーム形成ができた。

今年度の新たなスタートに、自衛隊での合宿を行った。目的は、ハングリー精神の養成、窮地に立たされた場面でも平常心で実力が発揮できる事、格闘精神の強化の3つである。

規律正しい生活の中で、覇気ある行動、障害走、銃剣道と取り組み、肉体的・精神的に追い込んだ中でハンドボールを持ったトレーニングをする。狙いは、ミスを少なく、又集中力を持続させるかであった。スタッフ、選手共に疲労状態であったが、最後までトレーニングを続け、目的に近づけたと思う。即結果は出ないが、試合の大事な場面でこの経験を活かす事ができる事を信じている。

今年度のアジア選手権と来年の広島アジア大会をどの様に戦うか、メンバーは今年度全日本選手の中から選ぶ。今年の目標は北朝鮮を破り3位以内、来年のアジア大会は2位以内を狙う。その為には、自衛隊の精神的な合宿を土台として、個人技術の向上、特に1対1に強くなる事　スピードアップ、コンビネーション、サインプレーの確立である。以上のプレー徹底により、一試合25得点の攻撃力、23失点以内の防御力を付ける事である。

スピードのあるサイドマン小俣、比嘉、松下、両田中、伊佐野の走力は問題ないが、ノーマークシュートを身体を張って打ち込む事が課題である。ロング陣の貴田、西、山川、松本、山尾のシュート確率を良くする事が第一であり、又強気でシュートを打ち込む事も期待したい所である。ポストの谷本、荒川はそれぞれ持ち味を活かすプレーする事と、ロング陣を活かすプレーを身に付ける事が課題である。

センタープレーヤー比嘉、上出の他のプレヤーを活かすプレーばかりでなく、自分で強引にシュートまで持って行く事、相手によって対応能力を身に付け発揮する事、防御力は西村、西口を中心として0：6、1：5、1：2：3変則防御が相手により使い分けられる強みが出て来た。GK村山、川島の安定感のあるキーピング、古沢のトリッキーなキーピングは、DFとコンビネーションが合えば完璧である。

選手の力を充分に発揮できる万全の調整と闘志が沸き立つ戦術、戦略、いかに実行するかが問題点である。一歩一歩前進して挑戦したいと思っています。

夢に向かって

志々場修二（北陸高校）
博子（森田中学）



「ただいま」

午後6時半、私は両手いっぱいにスーパーの袋をかかえ帰宅する。

「おかえり」

義姉が下宿生の食事の用意をしながら迎えてくれる。

「今日のおかず何ですか」

「トンカツよ」

「じゃ、みそ汁作りますね」

私はさっそく大きな鍋と奮闘開始だ。そうしている間に、主人、下宿生、娘が次々と帰ってくる。下宿生はすぐに掃除にとりかかる。主人の大きな声が響くので、私も気が抜けない。7時半、下宿も我が家も夕食だ。8時、下宿生は銭湯へ。私もようやく一息「ああー、疲れた」

結婚して17年、主人は高校教員、私は中学教員、共にハンドボール部の顧問をしながら教員生活は20年を越えた。いつの間にか主人のペースに乗せられ、あれよあれよという間に今では下宿生20人との同居生活。こんなはずじゃなかったのに……。

主人の夢は、高校日本一！今年こそという気持ちが高じて、家も改築し、いつの間にか、今では県外からの生徒を含め下宿生20人という結果になりました。

夢が実現するかどうかわかりませんが、「今年こそは！」の言葉に乗せられ、今日もまた夢に向かって歩いています。

こんな中、教え子たちが、大学、各実業団や地元企業でハンドボールを続け活躍をしてくれることが何よりの喜びです。

私たちの歩き方はこれで良いのか、7年歩み続けていてもいまだ結果は出ていませんが、ハンドボールにかける熱いは人一倍だと自負しています。これからも互いに情熱を持ち続け、歩いて行こうと思っています。今後共よろしくお願いいたします。

ドイツ研修レポート

シーズン前のトレーニング

田口　隆

今、ここドイツはシーズンオフに入り、今まで何かと忙しかった私も、何となく落ち着く日々を送っています。そこで、今月はシーズンについて報告したいと思います。

まず、日程的なものとしては、9月から6月初旬がシーズン（ブンデスリーグetc）となり、それが過ぎると7月終わりまでがシーズンオフとなります。TSU Bayer Dormagenでは6週間の完全なオフとなります。そのシーズンオフが終わると、9月まではシーズン前のトレーニング期に入ります。

このシーズンについて、私がDormagenの監督と話をした内容の中から、シーズン前のトレーニング期における考え方を次に述べます。

彼が言うには、まず準備の段階で7月終旬から8月にかけてのトレーニングが最も重要で、この時期によいトレーニングが出来たかどうかでそのシーズンの善し悪しが決まると言う。また、その時期に自分の考え等をチームに浸透させ、シーズン中にはその考えを変えることはないと言う（相手チームに対して戦術的に変えるということはあっても）。準備期間にしっかり力をつけるドイツの選手は、どんどんよい選手が育っていくとも言っていました。

また、私が日本のナショナルチームのコーチということで、ナショナルチームにとっても、各チームで十分なトレーニングを積んだ選手がナショナルチームに選ばれることは、ナショナルチームの強化にも役立っているとも言い、この準備期間はなくてはならないものだと言い切っていました。

このような話を聞き、日本の今の現状に当てはめた時、この準備期間が少なすぎるのではないかと思いました。日本国内ではみんなが同じ条件で、不公平があるわけがないので問題ないと思われる方もいるでしょうが、先に私のチームの監督が述べたように、全日本チームのことを考えれば、このような準備期間中に試合の中では学べないものを学ぶ。またトレーニングする時期にあてれば、全日本の合宿・遠征以外にも多くの鍛錬の場が設けられるのではないでしょうか。

多くのチームが故障者で頭を悩ませる中、準備期間、休みの期間をもう一度見直すことで、よい方向へ向かうのではないかと今回は思いました。

ナショナル(B)チーム便り

松井　幸嗣

平成5年3月15日から22日までの8日間、本年度のナショナル選手の選考合宿が行なわれました。その結果、Aチーム22名、Bチーム15名が選ばれて現在、活動をしています。私はBチームのヘッドコーチとして任命されました。今回は、ナショナルBというチームがどのようなメンバーで構成されているのか、活動内容や目標などについて触れたいと思います。

■メンバー構成

現在、ナショナルBのメンバーは15名ですが、このメンバーを基本として大会に応じた選手を送り出しています。たとえば世界選手権は大学生を中心としたメンバー、世界ジュニア選手権アジア予選には、年齢に適したメンバーで参加しています。Aチームに比べて年齢も若い選手が多く、また大学生の数も多く含まれており、将来が期待できる選手が数多くいます。

■ナショナルBの活動

平成5年度は6回の合宿が予定されています。

一、4／8～14　B強化合宿
二、5／26～29　世界学生選手権選手選考合宿
三、7／21～26　B強化合宿（実業団中心）
四、8／31～9／4　B強化合宿（ジュニア中心）
五、12／20～26　B強化合宿
六、3／19～27　B強化合宿（大学生中心・韓国遠征合宿）

各合宿ごとに実業団に所属している選手、大学生の選手、あるいは来年に予定されている世界ジュニア選手権アジア予選に出場資格を持つ選手などの強化を行っています。

練習は〝しっかりした器(身体)を作らなければ、たくさんの御飯(技術)を盛ることは出来ない〟という考えから、特に下半身（フットワーク）の強化と、日本の最高の武器である速攻に重点を置き、選手個々の良い所を伸ばす指導を目指しています。

■ナショナルBの目標

まず第1に、一日でも早くAチームに昇格することです。その為にはBチームにいる間に精神面、技術面、そして身体作りを確実に行ない、力をつけることです。このことは、スタッフの目標でもあります。

第2に、Bチーム単独での海外遠征、大会参加、国内での外国チームとの親善試合などに出場することです。

＊　＊　＊

以上、ナショナルBチームの基本的な部分を簡単ではありますが触れてみました。いずれにしても、蒲生ナショナルA監督が言っているように、私たちは一人でも多くの皆様に見てもらえるようなゲームができるように、選手達とスクラムを組んで、日常の訓練を計画的に実行して一つ一つ成果を上げていきたいと考えています。本年度はナショナルチームのスローガンであります

①Creative Thinking(創造し、考える)
②Real Action(実際に、行動する)
③Be Successful(成果、結果を出す)

をもとにトレーニングを実行していきたいと思います。

皆様方のご支援よろしくお願いいたします。

平成5年度女子ジュニア第1回強化合宿報告

高野　亮

5月25日～5月30日(5泊6日)の間、名古屋市のブラザー工業において、第1回強化合宿を実施した。昨年8月、北京市で行われたアジア予選では、4位という不本意な成績ではあったが、何とか「世界女子ジュニア選手権」出場への切符を手にし、本番までにはやらなくてはいけない問題を山積みにして帰国した。

反省点として

一、個々の基本技術の向上
㈠オフェンス面＝フェイント力、パステクニック、シュート力等
㈡ディフェンス面＝スピードあるフットワーク、ボディアタック等
㈢一試合を行なえる体力、および精神的スタミナの養成
㈣個々が「ゲームコントロール」をできるようにする。

二、コンビネーションプレーの向上
㈠オフェンス＝相手のディフェンスに対応できる幅広い攻撃力（戦術）
一次速攻・二次速攻での正確性
㈡ディフェンス＝相手のオフェンスに対応できえる何通りかのディフェンスシフト

等の点があげられる。

短期間の合宿ですべてを消化していくのは至難のわざではあるが、今回の合宿では「ディフェンス」に重点をおき、特に「相手の高さ・重さ」という点を頭におかせながら合宿を進めた。

システムとして
一、6－0ディフェンスからのプレスディフェンス
二、3－2－1・2トップのシステムを試みた。

プレスディフェンスを行うものとしての基礎技術の中で、マークにボールがない時のオーバーシフト、ボールがある時と、カットインプレーに対するオーバーシフトに重点をおき、

コンビネーションでは
・45°・センターオフェンスに対するフォロー
・トップ・センターディフェンスのサイドフォロー
・カットインプレーに対する受け渡しとマーク

について理解を求め、かなりの成果が得られたと思う。

しかし、今後の課題として、オ

ーバーシフト及びブロックをするためのフットワーク、またそれを支えるものとしての体力面が不十分である。コンビネーションとしては、視野外からのカットインも含め、コンビをとるディフェンスとのラインを破らせないという意識が低い。インサイドの空間にオフェンスを入れさせない練習をより強化していかなければならない。

以上のような練習内容を主に、午前中はジュニアだけでトレーニングをし、午後はブラザー工業との練習マッチで試してみるという方法をとり、またゲームの中では、精神的な面をチェックしたり、「ゲームコントロール」という点についても要求していった。

若い選手達であるがゆえに、「のっている時」、「のらない時」という差があり、この点についても強く要求し、それなりの成果が得られたと思う。また、中日の午後には、メンタルマネージメントについての講義も受けた。全体的には、前回のアジア予選の時とくらべて、個々のレベルもかなりアップしており、各チームでのトレーニングのおかげと深く感謝いたしております。

次回の合宿は、韓国遠征をし、ゲーム中心の合宿になりますが、個々およびチームとしてもより一層の技術向上をめざし、本番に備える覚悟でおりますので、今後共ご協力の程お願い申し上げます。

国際情報

◎世界男子ジュニア選手権大会は8月8日～18日にエジプト カイロで開催

組合せ

Aグループ　スペイン、デンマーク、韓国、ポーランド

Bグループ　ロシア、ノルウェー、ハンガリー、アルゼリア

Cグループ　スウェーデン、ポルトガル、オーストリア、アルゼンチン

Dグループ　アイスランド、ルーマニア、ギリシャ、エジプト

◎世界女子ジュニア選手権大会9月3日～13日　ブルガリアで開催

組合せ

Aグループ　ロシア、ルーマニア、中国、日本

Bグループ　韓国、ドイツ、北朝鮮、ウクライナ

Cグループ　スウェーデン、ベラシール、ブルガリア、アルゼリア

Dグループ　デンマーク、ポーランド、オランダ又はオーストリア、ブラジル

◎AHF常任委員会が4月11日にクウェートで開催され次のことが決定した。

●アジアオリンピック評議会によるイラク追放の継続を承認した。

●広島の組織委員会より送付された1994年広島で開催される第12回アジア大会のハンドボールテクニカルハンドブックを承認した。

●1994年9月30日に理事会を開催。

●1994年10月1日総会を開催。

●アジア選手権大会がオリンピックアジア予選を兼ねることが承認された。但し、同大会がオリンピックの前年に開催される時にのみ適用。

●ウズベクスタン、ツルクメニスタンの加盟が認められた。

●1993年9月24日に常任委員会、1993年9月25日に総会を開催することが決定。

◎MCの西山氏は2月の会議においてエイズ予防のため検査実施について提案

◎1995年にアイスランドで開催される世界選手権大会にアジアからレフェリーを推薦するようIHFに依頼する。

◎アトランタオリンピックの出場資格は96世界選手権の順位によることとなり、男女各7位まで、開催国と各大陸1に出場権が与えられる。

◎スロバキアは1997年の学生選手権大会の開催を申し込んだ。

◎1997年の世界選手権大会にオーストラリアの参加が認められる。ただし、オセアニア予選大会参加5ケ国以上が条件。

◎全ての世界選手権大会の組合せ抽選は大会の9ケ月前に実施することが決定

◎1994アジア大会(広島)にはヨーロッパから3ペアのレフェリーが参加する予定。

◎93年11月24日～12月5日ノルウエーで開催される女子世界選手権大会の組合せ

Aグループ　ノルウェー、ポーランド、ハンガリー、スペイン

Bグループ　ロシア、デンマーク、韓国、リトアニア

Cグループ　ドイツ、ルーマニア、スウェーデン、アンゴラ

Dグループ　オーストリア、中国、チェコスロバキア、アメリカ

◎IHFでは1993年2月の会議で次のことが検討された。

●男子世界選手権大会は24ケ国で行う。但し、24チーム参加では主催国が無い場合は20ケ国で行うこともある。開催は6月又は7月。

●1997年からオセアニアにも1チームの出場権を与える。

●予選は世界選手権大会の6ケ月前までに開催しなければならない事等。女子世界選手権大会は1995年から24ケ国で行い、開催は12月とし、オセアニアにも1ケ国の参加を認める。

●世界男女ジュニア世界選手権大会は2年毎の9月に各20ケ国参加で開催、予選は6ケ月前までに終えなければならない。





沖縄県ハンドボール協会



沖縄のことわざに「ハーレー鐘が鳴ったらツユも明ける」というのがあり、各地でハーレーの大会が開催され、今まさに暑さの盛りで、暑さを通りすぎ痛さを感じる季節になって、スポーツ界では屋内外を問わず暑さとの戦いです。

本県ハンドボール協会は昭和40年に故仲田豊順先生が創設され、基礎的条件を整備し、現嘉陽宗陰会長がそれをもとに充実、発展されてこられました。

本県は本土から遠く離れ、競技力の向上を図るには決して良い条件ではない中で、全国に誇れる競技人口と競技実績をあげてきました。その背景には、昭和62年に開催した海邦国体が大きな契機となっています。市町村との連携による水中学生へのハンドボールの普及と指導者の養成と確保、施設整備、中央派遣コーチによる強化策の継承、父母、地域の理解と支援等の要因があげられます。

国体を開催した時の情熱ある体制は嘉陽会長を中心に確実に引継がれ、大会の運営、選手の強化等に生かされている。総務委員会で年間行事計画作成と役員の割当、競技委員会での大会の運営、審判委員会では審判員の配置と研修、強化普及委員会では競技力分析と選手の強化策等、各委員会の有機的な連携による生きて動く指導体制を確立している。

本協会の登録チーム数は１４０チームあります。

小学生は16チームで年間３回の県大会、九州、全国大会にそれぞれ１回派遣している。平成４年度には九州、全国大会を制覇し、毎年上位の成績をあげており、全国で勝つよりは沖縄予選で勝つことが大変である。

又、中学生は42チームが登録し、年５回の大会で九州大会に３回、全国大会に２回派遣している。九州、全国大会では毎年上位に位置し、平成４年度ＪＯＣジュニアオリンピック大会では九州で優勝し、全国大会で３位を収めました。高校・一般では82チームが登録され、高校が５回の県大会、九州が２回、全国が２回の大会に参加している。平成４年全国選抜大会で男子３位、平成５年度九州総体で男子が選抜大会優勝のチームを破り優勝している。

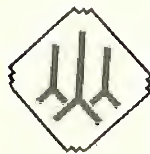
一般は年３回の県大会を開催しており、九州選手権で７回優勝、全国クラブ大会で２回優勝している。特に一般チームは大学等で活躍した選手が戻って来ており、定期的に練習し、各選手が本県のハンドボールのレベルの向上に自らの果す役割について十分に認識している。

以上のように小学校から中高校・一般と多くの実績を残していますが、悩みのタネは派遣費が多県と比べて多額にかかることから、県外試合が出来ないことであります。

幸いなことに日本協会はじめ全国のハンドボール関係者が理解を示し、ご助言とご支援をしてくれることであり、その中でも九州各県の関係者が九州は一つということで積極的にご支援下さることであります。

これから本協会も九州を追い越し、全国を制覇することを目ざし、なお一層努力していく所存でありますので今後ともご指導のほどお願いします。

山梨県ハンドボール協会



山梨県ハンドボール協会の創立は、昭和22年ですから47年が経過していることになります。愛知県でハンドボールを知った小林勝意氏が、22年４月山梨県に転勤するやこれを紹介し、山梨女子師範学校が導入してハンドボール部を作り、活動を開始したのが今日までに発展した基であります。志のある人達の努力で、この年の12月には早くも山梨県ハンドボール協会が創立され、山梨県体育協会には２年後の24年に加盟し、一人前の競技団体として今日に至っております。

クラブとして活躍が期待された山梨女子師範は、翌年の第３回国民体育大会でいきなり優勝を遂げ、その後全日本総合の優勝を始め、全国大会では常に上位入賞を果たす活躍で、後続に良い刺激を与えてくれました。

ここで活動した選手が教員として高校・中学に種を蒔き、また伸ばし日川高校・塩山高校・山梨高校等が全国大会或はブロック大会で活躍し、特に日川高校女子は昭和57年鹿児島での全国高校で我々が念願の優勝を遂げ、山梨県の存在を示してくれました。

又高校・大学を卒業した者による一般の部の結成も盛んになり、特に61年かいじ国体を迎えるにあたって誕生した実業団シャトレーゼの存在は、県内外に大きな好影響を与えております。

こうした中で本県の現在のチーム数は、スポ少２、中学男15女７、高校男20女13、一般男10女１、大学男４女２、実業団女１とあまり多くありません。それというのも、県内の高等学校が公私立45校と少なく、加えてハンドボールを学習した教員の採用もままならず、チーム数を増やすどころか現状を維

持するのが精一杯というのが偽らざるところだからです。

しかしながら反面好都合の点もあります。それは、県内の大会はすべて体育館で運営出来ることであります。61年かいじ国体の開催で、38×20を2面とれる体育館が、会場地となった塩山市に1、甲府市に2体育館建設されたことにより、それまでの荒天時による日程変更の煩わしさから解放されています。が、やはり最もチーム数の多い高校の大会でさえ、1体育館3日の日程で消化出来てしまうというのにはやはり淋しさを感じています。

先日、本県の高体連で実施した最近の高校生のクラブ活動への志向調査の結果が新聞紙上で報告されましたが、サッカー・ラグビー・バスケット等は人気が高まっているが、ハンドボールは残念ながら人気減少状態とありました。協会スタッフ、また現場指導者の創意工夫が要求されているところです。

更には、平成8年度には全国高校総体をお引き受けすることになっており、底辺の拡充を図ることはもちろんですが、選手強化計画が目下の急務となっています。

この大会の運営については、本県は過去昭和38年富士吉田市、50年塩山市と2回開催し、運営には自信を持っているとは言うものの、過去の大会はいずれも少数種目開催のため、競技役員等専門家以外から多数応援が得られる状態でした。

しかし今回は全種目同時開催のため、どこまで人材が確保できるか、クリアしなければならない問題が多々あります。

61年かいじ国体を機に県協会の役員を大幅に組替え、若手起用を試みていますが、本県では公務員に対する特殊な勤務条件があるため、なかなかスタッフが固定し得ない苦しみを味わっています。そこのところが強化面では、シニアはまだ力を維持しているものの、少年少女は高いレベルの関東地区でなかなか勝てない状況にあります。審判では一時は3名の国際審判員を輩出し、かいじ国体では7ペアを提供してレベルの高さを示しましたが、現在は停滞気味となっているのは否定出来ません。

しかし、植野会長、奥山理事長を軸に、歩みは遅くとも焦らずに立直しを図る努力をしておりますので、日本協会をはじめ関係各位のご支援ご指導をよろしくお願い致しまして、「県協会だより」の一端とさせていただきます。

奈良県ハンドボール協会



この度、機関誌に掲載させて頂く機会を得ましたので、県協会の発展過程を振り返らせて頂きます。

県協会は、現会長・森田正英氏をはじめとして多くの諸先輩先生方が中心に、昭和24年3月にハンドボール競技を愛した先生たちで発足（設立）され、ハンドボール発展・普及に寄与され、平成5年に於いては協会発足45年が経過しようとしております。

その間には、本県高等学校出身者としてモスクワ・オリンピック代表に津川昭・大原真造（生駒高校）、ロサンゼルス・オリンピック代表に生駒靖夫（生駒高校）の3名が選手として選ばれ、活躍されました。

中学におきましては、昭和52年度に、土井喜光氏が指導されていた生駒中学校（男子）が悲願の全国優勝を成し遂げました。平成元年には大瀬中学校（女子）が全国優勝を果たしました。高校に置きましてはトップレベルの中学生が県外へ流出し、県内高校に入学しない為に全国大会におきましても、男子の添上・生駒・正強高校のベスト8が最高で在ります。

一般におきましては、昭和59年わかくさ国体開催を機にして教員チーム（わかくさクラブ）に若い選手（教員）が採用され活躍し、国体前の教員大会に於いて玉村健次選手（現・湧永製薬）を中心に悲願の優勝を成し遂げ一層励みと成り、国体において、成年男子（わかくさクラブ）・成年女子・高校男女の活躍で総合優勝を達成。その後、中学・高校に於国体で活躍した優秀な選手（教員）が指導者として各学校で指導されており、県内中・高校の競技力は向上されており、より一層の精進を期待しております。

ここ数年、高校を卒業し社会人に成りチームを形成し一般チーム登録が増えた事を契機に、本年より一般リーグ戦を強化の一環として開催する運びとなりました。更にこれを機により一層飛躍することを願う。

本年度は、第22回全国中学ハンドボール選抜大会が本県生駒市を中心に開催される運びに成っておりますので、協力賜りますようお願いします。

最後に、県ハンドボール協会は、日本ハンドボール協会の発展を願い、普及・強化に向けて一層努力を重ねていく所在でおりますので、今後共より一層ご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

（理事長　中川敏文）

各地の大会結果

北海道

北海道学生春季リーグ

（5月21日～23日／室蘭市立体育館）

◎**男子一部**

函館大学	31－15	札幌大学
北海道大学	22－13	北海学園大
道都大学	20－14	道教大函館
函館大学	33－8	北海学園大
札幌大学	25－18	道都大学
北海道大学	20－12	道教大函館
函館大学	32－10	道都大学
北海学園大	22－12	道教大函館
北海道大学	19－11	札幌大学
函館大学	46－8	道教大函館
北海道大学	21－17	道都大学
札幌大学	26－18	北海学園大
札幌大学	21－20	道教大函館
道都大学	20－13	北海学園大
函館大学	27－8	北海道大学

※最優秀選手に山田諭（函大）が選ばれ、得点王は37点を上げた反田浩（函大）が獲得。

◎**男子二部（順位）**

①小樽商科大学②札幌学院大学③北海道教育大学釧路分校④北見工業大学⑤室蘭工業大学⑥釧路公立大学

◎**男子三部（順位）**

①北海道工業大学②北星学園大学③北海道教育大学旭川分校④帯広畜産大学⑤北海道大学医学部⑥北海道学園北見大学

◎**女子の部（順位）**

①北海道女子短期大学②北海道教育大学旭川分校③北星学園大学

※北海道女子短期大は5季連続6回目の優勝。

北信越

北信越学生春季リーグ戦

（5月28日～30日／金沢市中央体育館）

◎**男子一部**

金沢工大	26－26	新潟大学
金沢工大	37－18	金沢大学
金沢工大	29－12	富山大学
金沢工大	34－16	信州大学
新潟大学	21－21	金沢大学
新潟大学	26－17	富山大学
新潟大学	28－18	信州大学
金沢大学	26－18	信州大学
富山大学	20－18	金沢大学
信州大学	24－22	富山大学

※金沢工大が5年連続15回目の優勝。得失点差により5位は信州大学となり二部へ降格。

◎**男子二部**

長野大学	19－11	富山医薬大
長野大学	20－13	福井大学
長野大学	23－12	富山国際大
長野大学	29－13	北陸大学
富山医薬大	12－11	福井大学
富山医薬大	17－9	富山国際大
富山医薬大	15－5	北陸大学
福井大学	21－9	富山国立大
福井大学	18－11	北陸大学
富山国立大	16－7	北陸大学

※長野大学が8年ぶり5回目の優勝で一部昇格を決める。

◎**女子**

仁愛女短大	25－17	金沢大学
仁愛女短大	22－10	信州大学
仁愛女短大	29－6	新潟大学
仁愛女短大	26－8	富山大学
仁愛女短大	43－2	長野大学
金沢大学	15－14	信州大学
金沢大学	16－12	新潟大学
金沢大学	19－12	富山大学
金沢大学	23－4	長野大学
信州大学	18－14	新潟大学
信州大学	13－13	富山大学
信州大学	20－9	長野大学
新潟大学	11－4	富山大学
新潟大学	27－6	長野大学
富山大学	21－11	長野大学

※仁愛女子短大は2年連続2回目の優勝。

東海

東海クラブ選手権

（6月13日／ジャスコ体育館他）

◎**男子**

〈Aブロック〉

▼1回戦

大同クラブ	19－15	清商クラブ
鵜ノ森クラブ	22－19	岐阜西クラブ

▼3位決定戦

清商クラブ	25－19	岐阜西クラブ

▼決勝

大同クラブ 25（18－5、7－11）16 鵜ノ森クラブ

〈Bブロック〉

▼1回戦

中京大クラブ	25－19	大垣クラブ
本田クラブ	20－19	静農クラブ

▼3位決定戦

静農クラブ	21－10	大垣クラブ

▼決勝

本田クラブ 26（14－10、12－9）19 中京クラブ

〈Cブロック〉

▼1回戦

あゆみクラブ	24－6	こうよう会
名古屋クラブ	21－8	静岡城北クラブ

▼3位決定戦

静岡城北ク	12－9	こうよう会

▼決勝

名古屋クラブ 18（5－6、9－8、2－1、2－2）17 あゆみクラブ

●**機関紙委員会スタッフ**

植村繁／恩田健一／木野実／本多正樹／菅野恵理／臼井鉄久／門松真一

日本協会だより

■平成5年度第1回全国理事会

6月12日(土)　於：東興ホテル会議室
出席　渡邊副会長、中澤専務理事、松本監事他19名

1．平成4年度事業報告承認
2．平成4年度決算(案)承認
3．平成5年度第1次補正(案)承認
　前年度決算による繰越金確定およびＪＯＣからの委託金、スポーツ振興基金からの補助金の確定に伴う補正
4．1997世界選手権大会誘致について
5．今後の財務課題について
　平成5年度から検定料の改定、役員賛助会費制度の設定を図ったが、更に財政対策として平成6年度実施に向け登録料、日本リーグ加盟金改定の検討を進める。
6．日本リーグ委員会規定承認
7．ＩＨＦコーチシンポジウム（5.30～6.3 ドイツにて開催）の報告（詳細別掲）
8．第12回アジア競技大会準備状況報告
　大会まであと 500日（5.20現在)。本年度から広島アジア大会組織委員会(略称HAGOC)と連携を取りながら各種マニュアルの作成に取り組み中。
9．中体連ハンドボール部推薦評議員
　加藤　正喜氏を承認

■正副議長会議

6月22日　於：新日鉄名誉会長室
出席　斎藤会長、米倉副会長、渡邊副会長、中澤専務理事
第15回世界選手権大会誘致の是非について討議、前向きに対応することとした。

■平成5年度第1回評議員会

6月26日(土)　於：日体協会議室
出席　渡邊副会長、大野監事、評議員出席22名、委任状22名、専務理事、常務理事
会議に先立ち本年度の国体開催県の香川県ハンドボール協会及び開催1市2町（高松市、香川町、綾上町）それぞれの代表の方からのご挨拶があった。
議事
1．平成4年度事業報告、承認
2．平成4年度決算報告、承認
3．平成5年度第1次補正予算審議、承認
4．第15回世界選手権大会誘致について別掲の通り1997年開催の第15回大会の誘致運動に着手することに決定
5．今後の財務課題について
報告事項
1．国体開催基準要項細則における屋外競技場の設置について
2．第2回ＪＯＣジュニアオリンピックカップ大会要項
3．国内大会の大会要項、試合結果、実施報告等日本協会への迅速な報告、届け出の徹底依頼。
4．国際交流の事前届け出、結果報告の徹底
　従来は海外遠征のみ義務づけていたが関係国等からの問い合わせへの対応のために来日についても届け出を義務づける。用紙は別途準備する。
5．第12回アジア競技大会準備状況

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第三三三号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
平成五年三月二十六日 印刷 平成五年八月一日 発行
東京都渋谷区神南一―一―一 編集兼発行人 中澤重夫
電話 代表 三四八一―二三六一
振替 東京 六―五八三四八番
定価三百五拾円（年間購読料三千三百円）